

学園だより

第91号

令和6年3月発行

都城工業高等専門学校
広報委員会



content

- | | | | |
|---------------------|----|------------------|----|
| ●巻頭挨拶 | 1 | ●特集Ⅳ こちら後援会 | 28 |
| ●学内動向 | 2 | ●新旧学生会長挨拶 | 30 |
| ●ようこそ学生相談支援室へ | 3 | ●学内トピックス | 31 |
| ●着任挨拶 | 4 | ●高千穂寮トピックス | 34 |
| ●退任挨拶 | 8 | ●学生表彰 | 36 |
| ●卒業記念・修了記念 | 9 | ●国際交流トピックス | 39 |
| ●特集Ⅰ 文化祭 | 21 | ●都城高専少年少女科学アカデミー | 41 |
| ●特集Ⅱ こちら在校生 | 24 | ●主な就職・進学内定先一覧 | 42 |
| ●特集Ⅲ 拝啓後輩殿(OB・OG通信) | 26 | | |
- 卒業生から後輩へのメッセージ

令和5年度を振り返って

校長 田村 隆弘



令和5年4月、本校に赴任しました。あっという間に1年が過ぎましたが、これからもよろしくお願ひします。私自身、徳山高専の1期生で、卒業後母校に奉職し、高専との関わりも50年目を迎えました。この間、平成10年4月から2年間、長岡技術科学大学へ人事交流で出向しましたが母校に帰ってからは、寮務主事や教務主事を担当しました。平成28年4月からは高専機構本部研究推進室（平成30年4月から研究推進課）に務めました。そして、平成31年4月から4年間福井高専校長を経験して、この春から本校に異動になりました。山口（徳山高専）で育ち、新潟（長岡技大）、東京（機構本部）、福井（高専）と各地で高専と関わって来ました。これまでの経験をこの地で活かせればと思います。

さて、5月8日には「新型コロナウイルス感染症」の位置付けが「新型インフルエンザ等感染症（いわゆる2類相当）」から「5類感染症」になりました。これにより政府から基本的感染対策を求められることや、感染症法によって新型コロナ陽性者及び濃厚接触者に外出自粛を求められることも無くなりました。約4年前の12月に始まったパンデミックに対する国家的制約が緩和され、ようやく、日常の賑わいが戻って来ています。

学生たちの活躍もコロナ禍前の状態に戻って来ました。夏の高専体育大会では、水泳や弓道など全国大会でも優秀な成績を上げてくれました。ロボコンやプロコン、デザコンなどの各種コンテストでも、学生たちの奮闘する姿が見られました。英語プレゼンテーションコンテストでは、初めて九州大会を勝ち抜きました。

秋の体育競技会の応援演舞では、機械工学科の応援団が直前のインフルエンザ感染拡大により辞退（演舞は延期）するといったハプニングもありましたが、6連覇を目指す物質工学科を、接戦の結果、電気情報工学科が阻止し、多くのご家族や地域の皆様が見守る中で、大変熱気に満ちた競技会になりました。その直後に行われた文化祭も、学生会が素晴らしい演出で盛り上げてくれました。学校後援会の皆さんによるカレーうどんも振舞われました。ありがとうございました。

一方で、今年は残念な事件事故も多発しました。4月には技術職員が準強制的性交容疑により逮捕されました。健全な教育機関であるべき学校として、最も恥ずべき、

そして、反省すべき事案です。この重大事件に誠実に向き合うと同時に、2度と同様のトラブルを発生させない努力をすることを誓いたいと思います。

また、学生との告別もありました。本当に辛く悲しい告別式でした。亡くなった学生のお父さんから校長にお願いがありました。「学生の皆さんに伝えてください。命を大事にしてください。あなたを大切に思っている人が必ずいます。」と。これから社会を幸せに導いてくれる人を育成する教育機関として、最も大切な命や人権について、校長は、ちゃんと学生たちに語りかけていますかと問いかけておられることを強く感じました。

4月の事件発覚後には、教職員は臨床心理士の方を講師に迎え研修を行いました。また、9月には「いじめ」をテーマとした研修を行いました。講師の小森美登里さんは、ご自身の娘さんをいじめで亡くし、「いじめ」が社会の大きな問題であることを訴え、今日の社会でいじめ対策の動きが生まれたきっかけを作られた方でした。彼女の「救わなくてはいけないのは、いじめをする加害者の子」といったお話は、多くの学びがありました。

命と人権の問題は、いじめ、ハラスメントなどの対人関係のトラブルに繋がっています。また、自らの存在に対する価値観などにも結びついています。文科省は、小中学校では、これらを道徳の授業で学ぶよう学習指導要領で定めていますが、高校では、各教科の中で道徳観や倫理観を教授するよう求めています。その意味では、私たち高専教員も学生たちに、対人関係においては「あなたの前にいる人も、一所懸命に生きている」ということ、また、何より「あなたの命が大切であること」を日々語りかけることが求められています。目の前にいる人が自分とは価値観が異なることは、これまで育った環境や出会った人が違うので当然であることや、「あなたを大切に思っている人が必ずいること」、そして「誰かのために生きることの大切さ」などに学生たちが気づいてくれるよう、もっともっと働きかけることが必要であることを感じた1年でした。

来年度、本校の60周年を迎えます。秋には記念のイベントも計画しています。ぜひ飛躍の年度にしましょう。

学内動向

教務主事 土井 猛志



今年度は・・・

令和5年4月に新しく教務主事となりました機械工学科の土井です。主事を拝命してからこれまでに色々なことがありましたが、教務的観点から今年度を振り返ってみようと思います。まず、令和5年5月8日、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが「5類」に移行し、本校においても様々な感染症対策が変更されました。そして、少しずつ学内のコロナ感染者数も減少する中で、インフルエンザの罹患者数が増加する状況となり、その結果、10月中旬から11月初旬にかけて、学級閉鎖や学校閉鎖の対応が必要となりました。また、8月初旬には台風が迷走し数日の休講措置をとることとなり、そのまま夏季休業を迎える結果となりました。

以上のように今年度は、コロナの影響以外で本当に休講日が多く、安全優先ではあるものの、結果的に学生の皆さんをはじめ教職員の皆様には大変な思いをさせてしまったと感じています。そのような中で柔軟に対応いただきましたことに対し、厚くお礼申し上げる次第です。今後も様々な予期せぬ事象や、また仮に予期できたとしてもそれに柔軟に対応していくことが必要になるかと思えます。その際には、どうぞよろしく願い申し上げます。

寮務主事 田中 寿



転機を迎えて

今年度を振り返ると、新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類感染症」に引き下げられたことが大きかったように思います。感染症対策は個人に委ねられましたが、寮生各自が集団生活を意識して行動してくれたことで、11月の学校閉鎖を除き寮の運営が継続できました。

来年度まで寮の建替え工事が行われる予定ですが、今年度は4月から第1棟の運用を開始しました。管理棟東側に第2棟が新しく建てられ、令和6年3月に竣工予定です。4階建ての第3棟は東側半分が9月に取り壊され、来年度残りが取り壊され役目を終えます。

寮生活では、5月8日を機に寮生会役員と相談し、当初より食堂に設置していたパーテーションを一部だけ残して取り除きました。また、寮行事では、新入生歓迎会を4年ぶりに実施し、寮祭は通学生の参加を認める形で実施できました。前期の寮生会役員は昨年11月からの活動で、学生間の交流を積極的に行う取り組みを進めていただきました。現寮生会役員はその意思を強く引き継ぎ、寮マッチを実施し盛り上げてくれました。また、平日の清掃活動も全員で取り組むなど、自主的に活動する姿勢は今後に期待できます。

制限が緩和された1年となりましたが、卒業する5年生の皆さんは、同じ時間を共有した仲間とのつながりを大切にして、それぞれの進路先でのご活躍を祈念いたします。

学生主事 永松 幸一



未知なる無限のエネルギー

昨年度までのコロナ禍の様々な対応から、徐々に平常を取り戻しつつある中で、この1年もあつという間に過ぎようとしています。

課外活動においては、昨年度以上に目を見張る活躍が数多くありました。水泳男子個人種目におけるインターハイ出場（本校4人目）、全国高専大会では水泳男子個人優勝2種目（1つは2連覇）、サッカー準優勝（初の決勝進出）、女子剣道団体準優勝（2年連続）、男子弓道団体準優勝（射道優秀賞受賞）、18年ぶり全国高専大会出場となったハンドボール部、その他各種コンテスト等への積極的な参加と、その成果について、本校HPキャンパスライフ内の学生表彰内に掲載していますので、是非ともご確認いただきたいところです。

また、「都城まちなかイルミネーション2023」における西都城駅でのプロジェクションマッピング作成、「地元宮崎県出身のシンガーみゆな×俳優高石あかりトークショー&ミニライブ」におけるウエルネス交流プラザ2階ムジカホール舞台セットのデザイン・制作を行うなど、高専生の実践的な技術力を活かせる場を地域の皆様にも多く与えていただき、その期待に応えた学生の頑張りに敬意を表したいと思います。

本校創立60周年である記念すべき今年、これら学生の未知なる無限のエネルギーを最大限に発揮し、地域や社会に必要なとされる学校として、学生及び教職員一丸となって走り続けたいと考えております。

専攻科長 清山 史朗



新しい専攻科のかたち

本年度より本校の専攻科に「九大工学部・九州沖縄9高専連携教育プログラムコース」が設定されました。このコースは、九州大学工学部「融合基礎工学科」と九州沖縄地区9高専の各専攻科との連携校にて修学する履修プログラムコースです。履修者は九州大学と連携高専専攻科の双方に在籍することになります。コースの特徴は従来のメジャーとなる専門教育に加え、関連性の高いIoT・AIの情報応用教育を修得します。またグローバル社会への情報発信力と実践的応用力を培うため、国際研究発表や産学連携研究プロジェクトへの参加の機会を設けます。この国際研究力と実践力を高めるため、大学3年次（専攻科1年次）から高専および九州大学の研究者間で連携する研究室へ配属され、双方の指導の下において研究力を強化していきます。プログラム所定の課程を修了した学生は九州大学からの卒業証書（学士の学位記）ならびに高専専攻科から専攻科修了証書とJABEE修了証が交付されます。まだ始まったばかりのコースですが、興味のある学生は進路の一つとして考えてはいかがでしょうか。

ようこそ学生相談支援室へ

問題解決の専門家

コミュニケーションが苦手でクラスで孤立している/空気を読むのが苦手で誤解される/板書に時間がかかりすぎてしまう/アルファベットだけが読めない/極端に苦手な教科がある/専門科目の成績が悪い/課題がキツすぎる/すぐにお腹が痛くなってトイレにこもってしまう/進級できない/留年することに抵抗がある/高専をやめてほかの進路を考えたい/進路変更について詳しく知りたい/就職や大学院進学の面接でどう答えてよいかわからない/そもそも人前で話すのが苦手/先生とうまくいかない/先生に相談しても取り合ってもらえない/セクハラを受けている/パワハラを受けている/学内で盗難にあった/友達とのお金のトラブルがある/ケンカ等による身体的被害を受けた/学外の人間から恐喝されている/特定の相手から長文のメールが頻繁に届く/SNS上で誹謗中傷されている/異性からつきまといを受けている/身に覚えのないことで責められている/いじめられている/寮での夜間騒音が耐えられない/先輩の指導が行き過ぎている/自殺をすることがある/自殺を考えていると相談されている/学校に来る意味がわからない/ゲーム依存から抜け出せない/学費を払うためにアルバイトをしなければならない/親とうまくいっていない/親から虐待されている/理由もないのに登校できない/ルールに乗った人生に疑問を感じることもある/



スクールソーシャルワーカー
小川太一

「まあ、なんとかなるだろう・・・」は禁物です。悩みはすぐに、自分一人ではどうにもならない大きさに成長します。だからこそ、まず、身近な人に相談してみてください。それでも解決が難しい場合は、スクールカウンセラーやSSW（スクールソーシャルワーカー）への相談をお勧めします。詳しくは、学生相談支援室まで。チャットでもOKです。

追記：毎年、就職試験や進学試験に対応した模擬面接を行っていることもお伝えしておきます。とくに、就職試験の面接で、どう答えればよいのか。面接のハウツーから面接官はなにを見るかまで、元面接官である私が、責任を持って対応いたしますので、ぜひ、ご利用ください。

学生相談支援室の5年間を振り返って

突然ですが、令和5年度をもって学生相談支援室長を退任することになりました。5年間の任期中には、教職員向けの学生相談支援室の手引きの作成、いじめ防止等基本計画・いじめ防止プログラム等の制定、スクールソーシャルワーカーの採用、テレビ会議システムでのテレビ面談の導入、相談件数倍増の達成など大きな変化がありました。



学生相談支援室長
武田誠司

特に感慨深いものには、障がいのある学生への対応を挙げます。我が国では、平成28年に障害者差別解消法が施行されました。障がいを理由とする不当な差別的取り扱いの禁止と、社会的障壁の除去の実施について必要かつ合理的な配慮の提供（以下「合理的配慮」とします）が義務化されました。本校における合理的配慮は、実際には令和元年度にスタートしました。当初は、学内への理解で難儀しましたが、現在は入学前に面談を行い、入学時からスムーズに高専生活が送れるようにシステムが確立されています。近年の傾向は、身体障害に関する事項よりも発達障害や精神疾患に対する「合理的配慮」の案件が増えてきています。高専や大学は高等教育機関であり、「合理的配慮」の提供はしますが、支援を受けた学生の成績評価は、シラバスに則った通常通りの評価が行われます。したがって、合理的支援を受けても学業が合格水準に到達しないケースも見られます。特に、高専での学業の不適合は学生にとって大きなストレスになり、学生の生活に様々な影響が発生します。その際に重要になるのが、保護者の見守りと（学生の）能力に対する見立てです。学生相談支援室は、保護者の相談も受け付けております。保護者の皆様も学生の卒業まで子育てを継続してください。よろしくお祈りいたします。

みなさん、SSW（スクールソーシャルワーカー）をご存知ですか？上にならべた悩みは、実際にこれまで、SSW（スクールソーシャルワーカー）に相談があったケースの一例です。SSW（スクールソーシャルワーカー）は、小さな悩みから深刻な悩みまで、とても範囲の広い相談に対応する仕事です。「心の専門家」であるスクールカウンセラーとの違いは、悩みを聞いてアドバイスするだけでなく、必要に応じて、悩みの相手（友達や親、先輩、先生や学校、学外の人間）との間に入って、あなたの学校生活がより良くなるように、交渉し、調整し、解決までをサポートするところです。そのため、SSW（スクールソーシャルワーカー）は、「問題解決の専門家」と言われることもあります。

「友達との関係で困っているけど、誰かに相談すれば、もっとややくしくなりそう・・・」とか、「高専に入学したけど、自分の興味、関心と合わないような気がして勉強に身が入らない・・・」とか、学校生活でありがちな悩みも、放っておくと、雪だるま式に大きくなっていきます。

悩みは、まだ小さいうちに相談するのが、解決へのコツ・・・

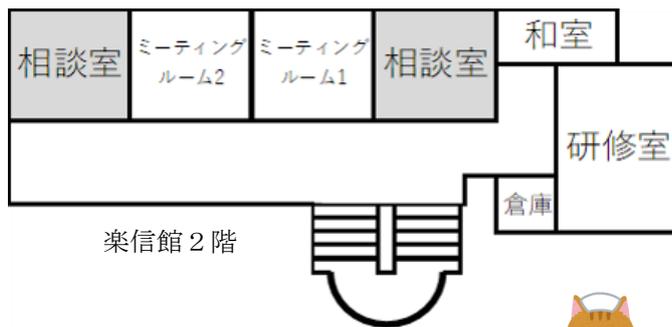
学生相談室の利用について

毎日の生活の中で出会う様々な問題や悩みについて、相談室スタッフと一緒に話し合ってください。

- ・直接スタッフへ：田村相談員、武田室長、看護師へ
- ・電話による申込：0986-47-1156
- ・Eメールによる申込：soudan@cc.miyakonojo-net.ac.jp

勉強、進路、交友関係、クラブ活動、自分の性格など悩み多い学生生活ですが、誰かに聞いてもらうだけでも気持ちが楽になるものです。相談内容の秘密は厳重に守ります。安心して相談に来てください。

相談室の場所はこちら



電気情報工学科 川崎 剛輝



着任の御挨拶

令和5年1月に電気情報工学科に着任しました川崎剛輝と申します。

私は平成30年に本校専攻科を修了し九州大学大学院を経て、令和4年12月までトヨタ自動車九州株式会社にてレクサスの設計に従事しておりました。母校である都城高専には5年ぶりに教員として戻ることとなりました。まだまだ未熟な面も多く、ご迷惑をおかけすること多々ありましたが、教職員の皆さまや学生の皆さんに支えられながら、無事1年目が終わろうとしています。今年度は、教育・研究活動はもちろんのこと、学生指導部として文化祭や体育競技会などの学校行事を通して学生の皆さんと多くの交流の機会がありました。行事の成功に向けて試行錯誤しながら成長していく皆さんの活気あふれた姿はとても感銘を受けたのと同時に、私の励みにもなりました。今後は学生の皆さんが大きく成長するためにより多くのサポートをしていきたいと思っております。

まだまだ未熟な面もあり、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、皆さまのお役に立てるように努めていきますので、どうぞよろしくお願い致します。

電気情報工学科 小玉 昂史



着任の御挨拶

令和5年2月に電気情報工学科に着任いたしました小玉昂史（たかふみ）と申します。

私は平成23年3月に本校電気科（今の電気情報工学科になる前、最後の電気科学生でした。）を卒業しており、その後平成25年3月に機械電気工学専攻を修了しております。母校は慣れ親しんだ場所ではありますが、教員という立場に立ち、今まで気づいていなかった先生方の苦労にも気づかされました。また、当時所属していた吹奏楽部の顧問にもなり、学生とともに四苦八苦しながら運営等を行っているところです。お世話になった先生方のすごさに気づかされるとともに、部活等を通して学生のパワー溢れるやる気にも気づき、こちらもいろいろなことを教わっております。

私は授業で通信工学や実験を担当しておりますが、研究においては、前職で県の研究機関で働いていたこともあり、画像処理等を用いた地域への社会実装研究を行っております。また、音楽情報処理という自分の趣味である音楽と情報処理を絡めた研究も行っております。

私が学生の時からいらっしゃる先生方を含め、本校の素晴らしい先輩方に一步でも近づけるよう日々精進させていただきますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

建築学科 牟田 諒太



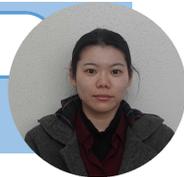
着任のご挨拶

令和5年4月に建築学科に着任しました牟田諒太と申します。私は宮崎市出身で、宮崎市内の高校を卒業後、大学に進学して、九州大学で博士号を取得し、本年度から都城高専で働かせて頂いております。高校は普通科だったので高専がどのような場所なのか、勤務し始めた4月当初は全く想像がついていませんでした。この原稿を書いているのが12月ですが、働き始めてから約8か月で授業や多くのイベントに参加し、学生たちと接することで、少しずつですが、都城高専について知ることができています。

私は建築環境工学という分野を専門にしています。建築環境工学分野の中でも、特に住宅などの室内環境で、人々の安全性や快適性を向上させるための建築設備に関する研究をしています。今年度より研究室に配属された建築学科の高学年生たちと共に研究を行っていますが、今後も、研究活動を通して、学生たちの成長に少しでも貢献できればと考えております。

まだまだ教員として不慣れな部分も多くあり、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。

建築学科 富久 亜以



初めまして！

建築学科の富久亜以と申します。令和5年4月より着任いたしました。早8か月が経過し、学生には、一緒に話をすることや創作活動をすることで、楽しい時間・体験を与えていただいております。また、先生方をはじめ職員の方々にもいつも大変お世話になっております。このように私自身の毎日は、感謝の日々であり貴重な体験の連続です。本当にいつもありがとうございます。

少し建築の分野から話をしますと、建築計画・設計において、最も重要なことは、身体的空間体験と「人」の存在です。身体的空間体験とは、既存の具体化された寸法感覚と、人・自分自身が建築物に入って体感する感覚（音、匂い、風、色、目に見えない空気感など）であり、「心地よい」と感じる感覚です。また、「人」の存在とは、建築物を利用する人をよく示しますが、それだけでなく建築は、一人では実現できません。デザインをする人、図面を描く人、施工の段取りを考える人、施主と話す人、材料を揃える人、材料を運ぶ人、設備を整える人、電気を配線する人、等々。

建物が活用されるまでのところでこんなに多くの人が関わっています。そうした意味でも、建築物は、古くなり、時代が変わっても、人に（地域の人だけでなく、遠い距離の人にも）長く愛され続けることが大切だと思っています。それは、「建築物」だけでなく、「人間」としても同様のことが言えるのかもしれませんが。私自身そのような「人間」を目指しつつ、できる限りのことを行い、一緒にたくさんのことを体験できればと思います。

至らぬ点も多々あるかと思いますが、学生の皆様、教職員・関係者の皆様、何卒よろしくお願い申し上げます。

一般科目 高畑 菜子



着任のご挨拶

令和5年4月に一般科目文科に着任いたしました高畑菜子と申します。出身は、岩手県盛岡市ですが、高校卒業後、新潟大学人文学部に進学し、そのまま大学院前期課程・後期課程と在籍し、昨年まで新潟大学や新潟大原学園で非常勤講師をしておりました。専門は、ドイツの哲学者イマヌエル・カントの倫理学研究になります。特に、カントの成熟した倫理学が成立する以前の初期哲学にまで遡った議論を扱っています。

高専の学生にとって、哲学や思想といったものは馴染みがないもので、最初は哲学的な問題に興味を示してくれるのか心配していました。実際、初めのうちは数学の問題に対する正解のような、はっきりとした「答え」が出ないという点に戸惑う学生も見られましたが、次第に慣れて積極的に発言してくれるようになりました。ときには、鋭い視点からの意見もあり、私自身よい刺激をもらうことができ、充実した日々を過ごしております。

高専教員としては、まだまだ至らない点があると思いますが、これからも日々努力してまいりますので、よろしくご挨拶申し上げます。

一般科目 久保田 翔大



着任のご挨拶

令和5年4月に一般科目に着任いたしました久保田翔大（くぼたしょうだい）と申します。私は令和4年3月に千葉大学で博士号を取得し、令和4年4月から1年間、神奈川大学工学部の特任助教として勤務してきました。私は京都出身で、その後、親の転勤で全国を転々とし、また研究集会等で様々な都道府県を訪れてきたのですが、実は九州に上陸することはありませんでした。初めての地で期待と不安を抱きながらのスタートになっていたのですが、お店等や学内で対応してくださる宮崎県民の方々の優しさや温かさ、そしてたくさんお話して、いろいろ宮崎のことを教えてくれる学生によって、充実した日々を過ごすことができています。

子どもの頃から教員になりたいという夢を持ち、教育学部に入りました。その後は数学の楽しさに気づき、そこから数学の研究をしつつ、学生の指導もできる道に進みたいと考えていました。この度その道の第一歩目を踏み出させていただくことができました。まだまだ至らぬ点が多く、色々ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、精一杯精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくご挨拶申し上げます。

一般科目 東根 一樹



着任のご挨拶

令和5年4月より、一般科目の教員として都城高専に着任いたしました東根一樹と申します。私は令和2年度に山形大学で博士号を取得し、その後研究支援者および非常勤講師を経験し、この度数学科の教員としてここに参りました。学生の皆さんが自分の興味と好奇心を追求できるよう、精一杯努力する所存です。

専門は代数幾何学です。代数幾何学では代数多様体とよばれる図形の研究を行います。代数多様体は非常に身近な対象で、例えば放物線は代数多様体の例です。ただし、私の研究では「1を何回か足して0になる」という性質をもった数たちを用いています。このような状況ですと、例えば上記の放物線について「放物線の各点での接線がx軸と平行になる」という興味深い現象を観察することができます。数学のこのような魅力を、学生の皆さんにわかりやすく伝えていきたいと思っています。

最後になりますが、これからの日々、皆様のご支援とご指導を賜りたく、心からご挨拶申し上げます。学生たちと共に学び、成長していけることを大変楽しみにしております。どうぞ宜しくお願い致します。

学生課長 深井 明



初めて尽くしの心境

令和5年7月に学生課・課長を拝命した深井明と申します。

大阪大学で働きだして以降、静岡大学、滋賀大学で会計系及び国際系の経験をしてきております。今回初の九州赴任、初の高専勤務、初の学生系部署と、初めて尽くしですが、上司、同僚、先生方、保護者の方にも助けられながら日々高専生のために精進しております。

都城高専は59年前に設立され、様々な分野に高専生を送り出し続けてきましたが、4年前に始まった未曾有のコロナ禍で遠隔授業の実施、寮の閉鎖といった事態を余儀なくされました。今後もコロナ禍の余波が残り、世の中が目まぐるしく変化し続けている中、ますます高専の在り方、存続のための努力が必要になってきています。せっかく都城高専に携わる機会をいただいたからには、色んな部署、人と関わり合いつつ、高専生にとってより良いサポートを実現し、少しでも本校に貢献できればと思っています。

趣味について少し。大型バイクで色々な場所を巡って名所やグルメを楽しんでいます（みやざき応援隊員）。既に宮崎県下26市町村を踏破しました。また、ピアノを弾くことも大好きです（随時リクエスト受付中！）。大阪に妻と娘（高校生）を残し単身赴任中。

総務課契約係長 獅々賀 英雄



着任挨拶

令和5年4月に総務課契約係に着任しました獅々賀英雄と申します。

約33年間大学で事務を行い、医療、会計、人事、学生、施設と幅広く携わってきました。今回、初めて高専での勤務となります。

今年度、契約係においては入札を多く予定しており、政府調達（当番校2件、協力校2件）、スタートアップ10件以上、その他約5件とここ10年の平均の3倍程度の業務量となっています。

これまでの経験と知識を生かし、先生方からの要望にお応えできるよう努めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。



総務課財務係 長瀬 和



着任挨拶

令和5年4月に総務課財務係に着任しました長瀬和と申します。

3月までは大学で経済を学んでおりました。着任して数日は自分が何をしているのか分からないまま過ぎていったのを覚えています。周りの方々のおかげで徐々に自分が担当する業務やその流れが理解できるようになってきました。

総務課財務係では、支払業務を担当しております。学生さんや先生方とお話できる機会は少ないですが、伝票を作成していると確かに私の仕事は学生さんや先生方を支えているのだと実感が湧いてきます。またそれと同時に責任もあるのだと思ひ知ります。学生さんや先生方を支えているという充足感と緊張感を持ちながら、これから長い社会人生活を充実したものにしていきたいです。

周りの方々に支えられ、社会人になってあっという間に1年が経とうとしています。本当にありがとうございます。社会人としての未熟な面、業務での至らない点がありご迷惑をおかけすることもまだまだあるかと思いますが、社会人の先輩方を目標に日々努力していきますので、これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

学生課教務係 花田 雅矢



着任のご挨拶

令和5年4月に学生課教務係に着任しました花田雅矢と申します。

生まれてから20年以上福岡県で過ごしてきましたが、この度ご縁をいただき、都城高専で働かせていただくことになりました。

前職とは異なることが多く、質問をせばかりの毎日で、自分の未熟さを痛感するとともに申し訳ない気持ちでいっぱいですが、丁寧に笑顔で教えて下さる周りの方々に支えられ、日々新鮮な気持ちで過ごさせていただいております。

学生課教務係では、直接学生と関わる業務が多いです。その中でも、私が担当している業務の一つにインターンシップがあるのですが、進路選択に大きな影響を与えてくれるインターンシップにおいて、学生と企業の橋渡しとなるような業務に携わることができ、とても大きなやりがいを感じます。

まだまだご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、学生、そして教職員の皆さまの力になれるよう、明るく前向きに業務に取り組んでいきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

総務課総務係 櫻木 奈美



着任挨拶

令和5年3月に学生課図書係に着任いたしました櫻木奈美と申します。

この度、縁あって都城高専にて働かせていただくこととなりました。

本を読む日常からかけ離れた生活を今までしていましたが図書館では本を身近に感じることができました。ブックハンティングというイベントで学生たちとバスに乗り宮崎の書店まで行ったときは数十年ぶりの遠足気分でした。思い出になりました。図書館ではたくさんの学生たちがお話をしてくださりました。自分が学生の時は高専の敷地に入るのは検定の時だけで、高専生との会話はハードルがすごく高かったのを覆すような楽しい時間を過ごせました。

体調をくずし、コロナにかかりと・しばらくおやすみをいただき、部署異動となり総務課総務係として復帰いたしました。雰囲気も仕事内容も全く違うなかお話しすることだけが好きな私は、図書館でも完璧に出来なかった仕事を中途半端にして総務係が務まるのかと不安はありますが、周りの皆様にご迷惑をおかけしないよう静かに自分のできることを全うして日々精進していきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

学生課学生係 川上 智恵子



着任挨拶

令和5年4月に学生課学生係保健室に着任しました看護師の川上智恵子と申します。前職は、陸上自衛隊で勤務していました。定年退官を迎え、第2の人生として、高専で勤務することになりました。

当初は、新しい環境で慣れないことも多く、色々な面で戸惑う事もありましたが、皆様方から懇切丁寧なご指導を賜り、大過なく1年が過ぎようとしています。

この1年を振り返り、保健室は、前田看護師が目指している「ほっとできる場所」だと思いました。病気やケガで保健室に来る学生だけでなく、たくさんの学生が来ます。そして、学年・学科の垣根を越えて、学生同士で情報交換をしたり、一緒にテスト勉強をしたり、先輩がアドバイスしたりする光景をよく目にします。その中から、私も現状について情報収集をしたり、学生の心理について学ぶことが多々あります。これからもその様な場を提供できたらと思っています。

まだまだ不慣れですが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

学生課学生係 森満 希



着任のご挨拶

令和5年8月に学生課学生係保健室に着任いたしました看護師の森満希と申します。

今まで医療機関での業務に携わっており、学校機関での勤務は初めてとなります。不慣れで戸惑うことも多々ありますが、保健室職員をはじめ、他教職員のみなさまや学生に助けられている毎日です。

保健室には病気や怪我はもちろんのこと、空き時間に勉強や雑談をして過ごしたりと沢山の学生が顔を見せに来てくれます。学校のこと、進路のこと、人間関係のこと、家庭のことなど学生との会話の中で、自身の学生の頃、同じような考えや悩みを経験したことを思い出し懐かしく感じております。

多種多様な可能性を持っている学生が、「明日も頑張ろう」「もう少しだけやってみよう」と思えるように、微力ではありますが学生の力になる架け橋となるよう尽力して参りたいと思います。

ご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、今後ともご指導を賜りますようお願いいたします。

学生課教務係 水野絵美



着任挨拶

令和5年10月に電気情報工学科事務補佐員として着任しました水野絵美と申します。

学校での事務職としての経験がなく不安な面もありましたが、周りの方々に支えられ大変充実した日々を過ごしております。

着任前の9月に、子どもと「第11回都城高専おもしろ科学フェスティバル」に参加しました。どのブースも興味深く、ワクワクして教室を回りました。身近な材料からモーターが作成できること、試行錯誤の連続の中からロボコンのロボットが誕生していることなど学生や先生方に教えて頂き、科学やモノづくりの面白さを体感しました。

こうした体験を日々積み重ねながら、学業や研究に励んでいる皆さんのお役に立てることを本当にうれしく思います。

学科事務の業務は多岐に渡り覚えることも多いですが、学生や先生方が熱心に取り組む姿を間近に見られ、やりがいを感じております。

まだまだ不慣れなことも多くご迷惑をおかけすることもありますが、皆様のお役に立てるよう微力ながら努めて参ります。どうぞ宜しくお願い致します。



退任挨拶

退任挨拶

平成元年4月1日に本校に赴任し、一昨年3月に定年退職後2年間の再雇用を経て本年3月に本校での教職生活を終えることになりました。

在職期間中、学級担任、主事補、一般科目理科長等の校務を担当し、また野球部顧問も長く担当し、高野連の各種大会の運営に携わることもありました。この期間の高専の大きな転換点として、平成16年度の独立行政法人化が挙げられると思います。それと前後して全国各高専で専攻科が設置され、更にJABEEおよび認証評価の受審が義務化されるようになりました。本校では平成14年度専攻科設置を目標に平成11年度にその準備委員会とワーキンググループが立ち上がりましたが、私もワーキンググループの一員としてその仕事を担当させて頂きました。続いてJABEE、認証評価受審に向けた取組みにも従事することになりました。その中で本校の教育理念等の制定に向けた議論の場にも参席できたことは幸いでした。一般科目の先生方に諸資料の作成をお願いすることも多くありましたが、常に真摯な協力を得ることができて大変心強く感じていました。

在職35年の間に、多くの教職員の皆様方の励ましとご支援を頂き、無事務めて来られたことに感謝致します。また、本校の学生は授業、課外活動、学校行事等の場で積極的に教員との交流を求めて来る者も多く、頼もしく感じています。学生諸君とも多くの思い出ができたことに感謝すると共に、本校での学びを通して「優れた人格を備え国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者」として立派に成長されるよう祈っています。

最後に、ここ数年の間に授業や会議等にオンラインが導入され、また機構本部から高専改革に向けた企画が継続的に提案され、対応に苦慮されることもありますが、それらの取組みにより都城高専の更なる発展を祈念し退任の挨拶と致します。



一般科目
小塚 和人

退職にあたって

最後の一年間はその時間の多くを研究室の片づけに充てる毎日でした。様々な資料や物品が出てくる度にいろいろと思い出してしまうのです。捨てるか保存するかで迷いながらの作業となり簡単には進みません。写真も多くありました。1996年4月に現在の職員住宅の4階から、旧職員住宅方向を写した写真には、4階建ての寮の東部分も写っています。古い職員住宅は錆の出ているトタン葺きで、所謂「簡平」（かんぺい、簡易耐火構造平屋）で、暴風時には風のリズムに合わせて天井が上下し、夏は涼しく冬は寒い、四季折々の季節の変化を室内で存分に味わえる趣のある草庵とでも言うべき住宅でした。建設当時を知る方の話では、「官舎（職員住宅の事）」は完成した当時はモダンな住宅だったとのこと。今では旧職員住宅も更地となり、新築だった宿舎も築20年以上の物件となりました。4階建ての寮（写っている部分）も今はありません。寮の屋上では、夜は季節を問わず点滅する蛍の赤い光は悩ましい思い出です。最もお気に入りの写真は、羽黒山の五重塔（国宝）の前での柔道部・剣道部の全国大会出場メンバーや引率教員・事務職員の方々との集合写真です。撮影者が思い出せないのですが、薄暗い森の中に差し込む光が私たちを照らし、その時感じた荘厳な雰囲気は今でもよみがえります。調査研究では見ず知らずの家に入りこんでのヒアリング調査のメモやアンケート調査の回収資料をみると多くの方々のご協力に対し感謝の念がつきません。課題作品や卒業生の設計作品や論文梗概をみると一人一人の顔が浮かび、多くの学生と過ごした日々が思い起されます。研究室から物がなくなっていくのにつれ、1988年に着任してからの36年間の重みを感じざるを得ません。最後にお世話になったすべての皆様に改めて感謝いたしますとともに、本校の益々のご発展をお祈り申し上げます。



建築学科
中村 孝至

卒業記念 ～機械工学科～

新たなステージでの活躍に期待を込めて

5年担任 瀬川 裕二

機械工学科5年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様にも心よりお祝い申し上げます。

本校に赴任して初めて5年担任を務めさせていただきましたが、このクラスの担任は3年次から務めたので、3年間担任が変わらないという珍しいクラスとなりました。3年生の頃はコロナの影響で遠隔授業を併用して勉学に励んだ1年間でしたが、文化祭では学科開放として段ボールを使った製作物やマインドストームを用いた学科紹介に取り組みました。2年生のときは遠隔授業で、クラスで一つのことに取り組むことがなかったため、とても貴重な行事となりました。4年生になるとコロナ禍前に近い状況に戻り、これまでの活動や行事が行われました。文化祭の研究発表では、電動キックボードの製作をテーマとして取り組み、短い製作期間にも関わらず完成度の高い製品を作ることができました。5年生の体育競技会では、最上級生として学科を引っ張り、競技部門、看板で優勝を果たしました。応援演舞に関しては体調不良者が多数出た関係で延期することになり、体育競技会では披露できませんでしたが、12月に改めて披露する場を設けていただき、応援演舞をやり切ることができました。声の大きさ、演舞の内容ともに非常に素晴らしく、体育競技会で披露できていれば優勝だったのではないかと個人的には思っています。低学年のときから授業態度も良く、何事にも素直に一生懸命取り組むクラスでした。

学生の一番の目標は進路決定であり、担任としても一番の仕事です。コロナ禍でやりたいことが制限される中でも進路決定に向けた取り組みは積極的に進めたいと思い、3年次では例年実施している九州内の工場見学旅行ができない代わりに県内日帰りの工場見学を実施しました。また、4年次の工場研修旅行は例年通りの内容で実施することができました。工場見学が大変有意義なものだったのはもちろんのこと、大阪で現地解散した学生は観光もできたものと思います。コロナ禍で制限された学生生活を強いられた皆さんにとって、この旅行が少しでも楽しい思い出となってくれたら幸いです。インターンシップも積極的に参加するように促し、ほとんどの学生が参加できました。学校生活では得ることのできない貴重な経験を積むことができたと思います。就職進学試験では、履歴書、エントリーシート、面接対策という大きな壁が立ちました。特に、履歴書とエントリーシートの添削では、私から何度も不備や修正を指摘され、自分の内面と正面からとことん向き合わなければならず、苦労し

た学生も多かったのではないかと思います。それでも皆さんは必死に食らいつき、内定を勝ち取ってくれました。

これから皆さんはそれぞれの道に進みます。専攻科に進学する人は環境が大きく変わるわけではありませんが、求められるものは高度になります。今まで以上に高い意識で勉学に励んでください。大学に進学する人は勉学に一層励むことはもちろんのこと、高専より多くの人と交流できる環境ですから、多くの人と交流して様々なことを学び、その先の進路に繋げてください。就職する人は自分の身ひとつでお金を稼ぐことの大変さを知ることになると思いますが、最初は何もわからないのが当たり前です。一人で抱え込まず、上司や先輩と相談しながら目の前の仕事をこなしてください。高専生が一般的に進む道とは違う道に進む人もいます。一度きりの人生ですから、悔いのないように自分で選んだ道でチャレンジしてください。

最後に、君たちを今まで支えてくれたご家族を大事に、そして自分の身体を大事にしてこれからの人生を歩んでください。幸せな人生を送ることを祈念しています。いつまでも、君たちのことを応援しています。



卒業記念 ～電気情報工学科～

卒業に寄せて

5年担任 永野 孝

電気情報工学科5年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

5年生の皆さんは、低学年生の時はコロナ禍の学生生活でしたが、充実した学生生活が送れたでしょうか。久しぶりに高学年生の担任をし、戸惑う事も多かった学年でもありました。最初、4年生の担任をした時は、低学年生の時に授業を担当していたにもかかわらず、名前と顔が一致せずに苦労していたことを覚えています。4年生での担任面談や授業を通して少しずつ顔と名前が一致するようになってきました。それでも、現在までやってこれられたのは、皆さんがクラブ活動など何事にも積極的に取り組む姿勢があったからだ感謝しています。

学校行事では、4年生校内研修で九州電力とトヨタ車体研究所からの卒業生2名に就職活動などのアドバイスを貰い、夏休みに開催されたインターンシップでは、コロナ禍のため直前にオンラインに変更になったり、中止になったりした会社もありましたが、自ら進んで取り組んでいたように思います。高専祭での4年生研究発表の顔認証による自動販売機も記憶に残っています。

4年生の後期頃からは、担任にも求人企業が学校にきて面談が始まり、対面とオンラインを合わせて延べ173社くらいの面談があり、その数に驚き、また、授業と学生実験がある中での時間調整や面談の対応等が大変でした。それと同時期に、来校した企業からの要望が有り会社説明会を教室で開催していたのですが、参加する学生が少しずつ減っていき、内心、5年生の就職活動に対して少し不安を感じていた時期でもありました。

しかし、4年生の3月に企業の会社説明会が一斉に開催されると、積極的に学生自ら動き、面接をホームページから直接申し込めるようになっていく会社があたりまえになってきている事もあり、担任の方が誰がどこの会社を受験しているのかを把握するのが、また大変でもありました。以前に、高学年生の担任をした時は、就職氷河期と言われるような時期で、2社目、3社目の採用試験を受験する学生が数多くいて、こちらが採用を会社をお願いしていたのが、一転して、売り手市場になり会社が入社をお願いに来るという所でも、大きな違いがありました。

一方、5年生の皆さんが就職を希望する職種については、情報・通信関係が多かったようですが、企業から学校に訪問に来る求人職種は、情報・通信関係以外の半導体、設備、電力関係等が多く、ミスマッチが生じているとの印象を感じながら企業との面談をしていました。そんな中、求人企業数も最終的には715社になり、就職希望者に対する求人倍率は31倍にもなっています。

進学についても、情報系の大学を中心に11名が国公立大学と専攻科に進学を決め、推薦書作成と調査書作成に取り組んでいた今年度の4、5月頃でした。こちらにも、長岡技術科学大学の教員2名が、教室に説明会に直接来るという学年でした。5年生の皆さんは、全員の進路が決まり卒業後はいろいろな分野に進むわけですが、若い時の苦労は、その人の人生の肥やしになるとも言います。困難に負けずに、自ら考え、自ら行動し、自分の人生を切り開いて下さい。また、時には立ち止まって自分を見つめ直す時期があるかもしれません。そういう時は、焦らず、ゆっくりと歩んで下さい。



卒業によせて

5年担任 金澤 亮一

5年物質工学科のみなさま、卒業おめでとうございます。皆さんがこの学び舎を離れ、新たな冒険に踏み出すことを心から祝福します。

この数年間、みなさんは様々な試練に立ち向かったことと思います。特に新型コロナウイルス感染症の影響は大きかったように思います。みなさんが2年生の頃に本格化し、学校行事の中止や慣れない遠隔授業、いくつかの実験も満足に実施できず、多大な影響と困難があったはずで。特に2年次に私が担当した設計・製図の講義は、慣れない遠隔授業、さらには物質工学科の学生の多くが苦手とする製図、厳しい提出期限と大変だったと思います。また、3年次の工場見学旅行が実施されなかったことは卒業後の進路を考えるうえでも大きな痛手だったように思います。5年次に新型コロナウイルスが5類に移行し、従来どおりの学校生活が戻りつつありましたが、それでもやはり影響は大きかったと言わざるを得ません。学校生活だけでなく、私生活においても多大なる影響があり、数々の苦労があったと思います。

しかしながら、皆さんはその困難に立ち向かい、自らの力で進路を決定し、本日、卒業まで至りました。この経験は今後の人生においてもプラスに働くはずで。

この世の中には多くの困難が存在します。それは時に予想にもしない形でやってきます。今後もみなさんの人生において様々な形で苦難や困難が襲い掛かると思います。それらは間違いなく危機ではありますが、変化を得るチャンスでもあります。

新型コロナウイルスの蔓延によって、大きな犠牲が生まれました。しかしながら、一方では、世界中でオンラインでの会議や仕事、学習が普及しました。人類はその柔軟性を存分に発揮できたように思います。本校においても、実はコロナ禍より前にはオンラインの学習環境が全く整備されていませんでした。特にみなさんに何かを連絡するときは、教室にプリントを掲示するか、放送で呼び出すか、教室まで皆さんを探しに行く必要がありました。休憩時間にもなるしひっきりなしに呼び出しや連絡の放送が鳴っていました。上手に捕まえられないと連絡の伝達に数日を要することがあったほどです。

しかしながら、遠隔授業のために導入したTeamsにより劇的な変化がもたらされました。遠隔授業はもちろんのこと、チャット機能を使い、皆さんに連絡することも呼び出すことも簡単になりました。教員と密に連絡が取れることにより、皆さんの就職活動や進学試験においても大きなプラスになったように思います。この遠隔システムにおいてはみなさんのほうが柔軟に適応し、存分に利用したように思います。

困難な状況に直面することは避けられない現実かもしれませんが、そこには希望と前向きな変化の可能性も存在します。困難に立ち向かうことで見えてくる新たな道や解決策、今後の人生において困難に直面したとしても、ただ絶望するのではなく、そこで訪れる柔軟な変化にも目を向けて欲しいと考えます。

卒業は新たな始まりです。未知の道を歩み始める時、過去の経験と学びが皆さんの力となります。そして、これからも続く挑戦や変化に対して柔軟に対応し、前向きな姿勢を忘れないでください。困難があるからこそ、成長があり、人としての深みが増します。

最後に、これまでの学び舎での日々に感謝し、そして未来への期待と希望を胸に、みなさんの新たな一歩を心より応援しています。多くのクラスメイトや、学校の先生など、いつまでも心の中でつながっていることを忘れずにいてください。そしてこれからも輝き続けてください。

卒業に寄せて 大変だった5年間

5年担任 中村 裕文

ご卒業おめでとうございます。まずは支えてくださった保護者の方々に改めてお礼を申し上げます。

顧みますとこの5年間は様々なことが起こり大変な5年間でした。皆さんがご入学された2019年は、すぐの5月に改元が行われ、平成31年入学（令和元年）と、このあとの5年間に象徴する様な始まりでした。

4月のパリ、ノートルダムの火災に始まり10月には沖縄の首里城の火災炎上と事件が続き、そこに年末から新型コロナウイルスの世界的な感染が始まり慌ただしいスタートでした。しかし、皆さんはそのような状況に負けることなく、おちついて学習に取り組まれクラスの評価はとても高かったと記憶しています。2年生に進級されてからは、国内でも新型コロナウイルスの感染拡大でほとんど学校に登校出来ず、遠隔による授業になってしまいました。それでも学習にしっかりと取り組み、授業を担当しながら感心していました。1年次の吉井先生、2年次の中村孝至先生のを引き継ぎ3年生から担任を務めさせていただきました。3年次も遠隔授業が多く、級友との交流も学校行事も体験できず辛い思いをされたかもしれませんが、皆さんは着実に知識・技術の習得を進められました。3年次の終り頃からワクチン接種のおかげで、全国的な感染状況もおちつきをみせはじめ、4年次では登校しての対面授業に戻ることが出来ました。進級後は意欲的にキャリア形成に取り組み、夏期休業中のインターンシップに積極的に参加され、1人で複数の企業の体験をされた方もいらっしゃいました。迎えた文化祭恒例、4年生の学科対抗研究発表で、他学科を抑え見事グランプリを受賞されたのはとてもうれしかったものです。

4年次の終わりからの就職・進学への取り組みは長年担任を経験してきた中でも瞠目するものがありました。就職も例年になく順調で県内企業、鹿児島企業の企業をはじめとする地元就職から、世界的な大企業までご自身の考えで内定をとられ、また進学も着実にすすめられたのにはとても感心いたしました。

そんなとても大人びた皆さんでしたが、定期試験の度毎にビンゴゲームで席替えをしたとき

のうれしそうな顔は忘れられません。

逆境にもめげず努力を積み重ねられ、辛いことも多かった5年間かもしれませんが、皆さんが入学された年に焼失したノートルダムも再建がすすみつつあり、首里城も2026年の復元を目指して先日柱梁が組み上がったとの報道がありました。着実に平常にもどりつつあります。これからのご活躍をご祈念させていただきます。

皆さんはこれから新しいステージに移り、改めてご自身の居場所を作っていくこととなります。これまでは周りからの指導で歩いていけば良かったことが、自分の考えで進まなければなりません。当初こそは研修や指導をいただける場合がありますが、早々に独り立ちをすることを求められます。特に就職される方々は技術者として多くの人と協力し、また多くの人を指導しながら活動することを求められます。AI活用などの新技術の習得や、建築士・施工管理士等の資格の取得も求められ、学生時代よりも進んで取り組むことが要求されます。そのとき本校で培った様々な力で乗り切ってください。

しかし、仕事をしていく上で様々な事柄にぶつかり、悩んだり、苦しんだり、挫折を感じることもあるでしょう。そういうときは、友人であったり、先輩であったり相談できる人を見つけましょう。身近で見つけることが出来ないときは様々な相談施設もあります。もちろん学校を頼ってきてください。1人で悩んで居るとどんどん悪い方向へ考えが進んでしまうこともあります。言葉にして口に出すと解決方法が見えてくる場合も多いです。是非とも相談してください。

そしてどうにもならなくなったときは、逃げ出しましょう。そこから新たにやり直すことは十分に可能です。それだけは忘れないでください。逃げ出すという言葉が良くなく聞こえますが、方向を変えるのだと思ってください。そのときはまた相談してください。皆さんのために学校が答えられるよう準備もあります。最後にそのことだけ覚えておいてください。



自分の足で踏み出す未来

専攻主任 藤川 俊秀

専攻科ご修了、誠にありがとうございます。ご家族の皆様におかれましてもお子様のご修了にお慶びもひとしおのことと拝察申し上げますとともに、心よりお祝い申し上げます。併せまして、専攻主任（以下、担任）を仰せつかりました二年間、クラス運営、授業や実務実習、特別研究や学会発表などに真摯に向き合い、熱心に学生のご指導を賜りました教職員の皆様に篤くお礼申し上げます。

みなさんと一緒に過ごした二年間、短い時間の中で如何にして皆さんと共に学校での生活を楽しみ、そして各々の目標に対してどのように私自身が向き合うことができるかを常に考えていました。専攻科は研究を主とした学校生活になりますので、みなさんが所属されていた各研究室の先生方にも相談をしながら、みなさんの「未来」を如何にして築くことができるかを一緒に考えていました。ときには「きびしく」、ときには「いっしょに笑いながら」、みなさんが一歩前にさらに一歩前に踏み出して成長されてきた姿が、すてきな思い出として私の中に残っています。専攻科に進学したみなさんと一緒に過ごす日々の中で私が大切にしていたことは、勉学や研究に専念できる環境や雰囲気如何にして確保するかでした。環境や雰囲気はただ施設があればできることではなく、私たち教員一人ひとりが高専という教育の場でみなさんと共に学び、そして研究する「うしろ姿」を見せることが大切であると考えていました。私自身が高専教員として成長する中で、みなさんと共に歩み、私自身がみなさんに支えられた一年でもありました。私がみなさんに相談をしたときには、ご自身のお気持ちを正直にお話くださり、物事を貪欲に深く考える姿勢が非常に頼もしく、感動したことを覚えています。常日頃の行動によって誠実な姿が記憶に残っています。この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

高専は、新入生は高校一年生の年齢、五年後に卒業する学生たちは短大卒業生の年齢、専攻科を修了する学生たちは大学卒業生の年齢といった極めて広い年齢層の学生たちを教育しなければなりません。ここで共通しているのは、高専の設立理念からして、みなさんは卒業後に実社会に出て即戦力を問われる立場になるということです。みなさんはそれぞれの道を歩まれることとなりますが、どのような道を歩まれたとしても組織の中で「替えの利かない人」はいまの位置にとどまり、「歯車として機能する人」はどのような環境に身を置かれたとしても、人の上に立てる人材になることができると思いま

す。失敗を恐れず若いうちに多くの失敗を経験してください。そして、若いうちに雑用をいっぱいこなして多くのことを吸収してください。この姿勢を忘れず、各々の進路先におかれましても、「前向き」に「心素直」に歩いていかれることを期待しております。また、自分に見えている目の前の現実希望をもち、前向きに捉えて困難を乗り越えていられることを祈念しております。少しきびしい表現になるかもしれませんが、個人の成長を考えたとき「どのような組織でも働いて、結果を出せるようになる」ことを意識して人生を歩んでみてください。

ご修了まで七年間、皆さんはご家族や仲間（学生）、指導教員の先生方と教職員の皆様など、多くの方々から励まされてこられたかと思えます。しんどいときには皆さんの背中を押し、がんばったときには褒めてくださった方々に感謝の言葉を伝えてください。そして「感謝の気持ち」と「おもしろい」を忘れず、皆さんは次の世代の人たちの背中を押ししてください。いまの一瞬一瞬を大切に、情熱と信念をもって人生を歩んでください。もちろん最短距離を進む必要はありません。遠回りをして結果的には必ず最短距離を見出すことができるからです。

最後にお願いが一つだけあります。高専で学んできた「知」と「がんばり」は、世の中の困っている方々を助けるために、その人たちを「幸せ」にするために使ってください。これからの日本を支える人材になってくれることを心から願っています。今後の皆様のご活躍を心より祈念し、お祝いの言葉にかえさせていただきます。



修了記念 ～機械電気工学専攻～

この1年を振り返って

専攻主任 濱田 次男

専攻科修了生の皆さんおめでとう。これまでの勉学の頑張りで今日を迎えている。そして今日から次のステージへの出発であり、ここが終わりではない。専攻科学生は、七年間という長きにわたり一つの学問分野を学びよく頑張り抜いたと思う。多くのことがあったが、この一年を振り返りいくつかの話題に触れてみよう。

猛威を振った新型コロナウイルス感染症も年度が明けてから五類へと分類され、日常的にはすべて終わったような雰囲気となった。あくまでも分類は人が決めたことであり、半信半疑のまま日々を過ごした。これは感染症が終息したわけではないからである。確かなことは基本的な予防さえ怠らなければ、以前のような爆発的感染拡大は無くなったということである。そういう意味から普通の学校生活に戻りつつあると感じられた。そう言えば、いつのまにか消毒液も教室から無くなり、扇風機もホコリをかぶって教室の隅に置かれている。あたかも遠い昔のこのようである。

進路状況は、例年のように希望通りの進路選択ができた。就職については、先に書いたコロナ明けの人手不足から良好だった。進学に関しても希望の大学院へと進学できた。今年度の電気修了生は五名で、本科四年、五年時に担任した学生らである。本科の卒業時と違いかなり成長した姿が見られた。特に人前でのプレゼンテーションや物事に対する考え方に成長が感じられるようになった。それぞれの進路先として、三名が大学院への進学、残り二名が大手企業への進路を選択して六月までに決まった。これは、本科で就職進学のプロセスを踏んでいることから、その流れをよく理解していたことや年明けから各自がしっかりと準備していたこともプラスに働いたと思う。さらに、先に記したが社会情勢もこれまでとは違い、積極的な採用増の動きとなったのもその要因の一つであろう。学生の思いと社会の要請がうまくマッチングした結果とも受けとめられる。

専攻科一年時の長期休暇中に行われる実務実習（インターンシップ）にも先の社会情勢の動きは見られ、四名の学生が県内外の大学や企業で実習等に取り組んだ。企業から送られてくる各々の評価は、良好だった。このことは次年度の就職、進学活動もスムーズに進むと予想される。電気系だけのことかもしれないが、特に実務実習先が電気系企業だけでなく多種多様な分野にわたっていることである。例えば、機械系の企業だったり農業法人だったり電気とは全く関係ない分野と思われがちである。いわゆる非電気系の企業からの受け入れ要請も多くなっている。これは別な見方をすると電気系の専門の中にも多くの分野がある。たとえば、電気エネルギーの

分野が目に見えない形で社会基盤を支え、情報通信や電気制御などの分野は異業種間（横の方向）の連携を強化したうえで、効率化などその分野の深さ方向にも大きく影響しているのは周知のことである。一つの優秀なマシーンがあると仮定しよう。今の時代そのマ



シーンだけでは、それだけの価値である。ところが、横方向に連携することで、例えば運転に対する故障診断も常時行われ、故障しないストップしないシステムが実現可能となる。そんな横方向を繋ぐ道具が電気の各分野にあるように思われる。それゆえ、そんな知識を持つ学生への求人、インターンシップ受け入れ数が増えている理由とも思われる。

これまでME専攻（電気専攻）では、企業見学などの活動は特に実施してなく研究室単位での活動に任せられてきた。今年度初めて米国シリコンバレーにあるIT関連企業への訪問を実施した。今を勉強するのも大事だが、なぜ今があるのか？これからどこへ向かうのか？そのためのキーは何なのか？こんなことを読み取ってほしくて今年度企画した。世界に名だたる企業もベンチャーからはじまり、より便利なもの、より社会貢献するものを追求してきたようである。また、その経営方針に多くの知恵が集まって今があるようだ。ただ、創設者の先を見通す能力は素晴らしいものがあり、その経営方針も社会の変化に柔軟に軌道修正できる部分と創設期から脈々と継続されている部分があることが話の中から聞き取れた。学生にとっては、初めての国外旅行で良い体験となったものと思われる。

今後学校を離れてからは、自分をどのようにアピールするかが大事になってくるのではないかと。これまで学んだことから自分なりのオリジナリティーに変えてどのように発信するか、それが社会にどれだけ役立つかを見据えて物事に取り組むことが大事だろう。冒頭に書いたように今日は出発の日で、方向は異なるもののそれぞれの未来に夢に向かって頑張ってもらいたい。皆さんの今後の活躍に期待したいと思う。

修了記念 ～物質工学専攻～

専攻科修了生へ

専攻主任 野口 大輔

本日ここに学士の称号を得て、修了の時を迎えられた皆さんに、心からのお祝いを申し上げます。また、皆さんの勉学を支え続けて下さったご家族の皆様にも心よりお祝い申し上げます。

卒業する皆さんは、今この時、都城高専に入学された頃を思い起こされれば、膨大な知識と技術が身につけている今の自分に改めて気付かれるはずです。

今、卒業される皆さんを送り出すに当たって、私が皆さんに期待していることは、豊かな自然環境にある都城高専で習得された知識、技能をもって、皆さんが主体となる21世紀に、真の市民社会を実現するための課題を発見し、解析し、対策を企画提案し続けてくれることです。そして、進んで評価を求め、一層の進歩を期する心を持ち続けてくれることです。

広くは世界の、近くは私たちの生活する地域社会の現状を見る時、多様性ではなく、多くの混乱の中に、一刻一刻が過ぎつつある事を憂います。

皆さんが旅立とうとされている今の社会は、人類が憧れ続けてきた、真の平和を具現する市民社会を作り出すための、基本的な思想が見え難い状況にあります。こうした混沌の環境にあっては、自分とは異なった価値観や考え方に遭遇することは屡であろうと思います。その時、一步立ち止まり、素直に耳を傾け、自他の異なる点に思いをめぐらす、心の余裕を持っていただきたい、他を認める謙虚さや、深い思慮を持って対処してゆくことのできる人間であって頂きたいと、願っています。他者についてよく知り、そして自らを省みる心を基本として、皆さんの身につけている知識、技能を総動員すれば、多くの困難を克服できるばかりでなく、皆さんの手で、皆さんの、理想の21世紀は、創り出せると信じています。

このたび物質工学専攻を修了する学生の数は、7名になります。うち4名が大学院(東京工業大学大学院、九州大学大学院、大阪大学大学院)に進学し、3名が企業(沢井製薬株式会社、DIC株式会社)へ就職します。それぞれ異なった道へ進んで行くこととなりますが、それはある意味、皆さんに新たな枠を与えるものであるといえます。ここで私は敢えて皆さんに、「枠を超えて可能性を掴め」という言葉を送りたいと思います。自らの枠を超え

て、一步踏み出す勇気をもって欲しいと思います。それが新たな可能性を与え、自分を鍛え、新しい優れた仲間を与えてくれるに違いありません。行き詰まった時には母校を訪問し、恩師に会うなり、新しい出会いの場で得るであろう多くの友人に相談するなどして、雄々しく目標・夢に向かって進んで行ってもらいたいと思います。

みなさんのこれからの人生が、いい人生であることを祈っています。また、健康には、くれぐれも留意され、全世界の何処にいようとも、あなた方の21世紀を、あなた方自身の手で創り出すための活躍をされることを強く期待します。

ご修了おめでとう。



修了記念 ～建築学専攻～

楽しく豊かな人生を！！

専攻主任 杉本 弘文

建築学専攻2年生の皆さん、専攻科修了おめでとうございます。併せて、保護者の皆さまにも心よりお祝い申し上げます。

専攻科2年生の皆さんは、私にとっては初めての4・5年生の担任、そして専攻主任を共に過ごすことになりました。4年時は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、あまり皆さんと対面でお話する機会も持てないまま、あっという間に時間が流れていきました。5年時、専攻科1年時はまだコロナ禍の影響が残る中、授業と研究を両立させてきました。そして、専攻科2年生になり、GWの大型連休が明けた5月8日に、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが季節性インフルエンザと同じ「5類」に移行したことで、少しずつコロナ禍前の生活に戻り、「ウィズコロナ」から「アフターコロナ」「ポストコロナ」の生活スタイルへの移行が求められてきました。

担任、専攻主任として力が足りない点、不甲斐ない点も多々あり、様々な場面で皆さんにはご心配・ご迷惑をお掛けしたかと思えます。不躰ではありますが、本紙上を借りて深くお詫び申し上げますと共に、皆さんのご協力とお力添えにより何とか4・5年担任の2年間、そしてこの1年間を乗り切れたこと、感謝の念に堪えません。

新型コロナ禍におけるさまざまな経験を受けて、従来の延長ではない生活様式や価値観などが変化した状況が今の日本、そして世界には表れてきています。おそらくコロナ流行前には考えられなかった社会に今、なっているのではないかと思います。

5年の卒業時にも皆さんに問いかけた内容を、今一度記しておきたいと思えます。

「皆さんの目には今後の社会・未来はどう映っているのでしょうか？そこに夢は見れていますか？」

この数年間、様々な社会構造や慣習の問題がクローズアップされました。また、人々の価値観でさえも変換していくことに直面したかと思えます。世界中の人々にとって経験をしたことがない状況のなかであらゆる変革が求められ、それに対する人々の批判や不満も多く出てきている今日ですが、その根本にあるものは何なのか、一研究者として、一教育者として、そして建築人としてどこにアプローチしていくべきなのか、考え続ける日々です。目の前で起こった物事に対する批判や批評で終わっては永遠に豊かな未来はやってきません。評論家ではなく、私たち一人一人に、ものづくり・ひとづくり・みらいづくりのプレーヤーとしての資質が問われています。（ここまでは2年前と同じ想いです）

おそらく自身の成長を実感する場面は学校の「授業」内にはあまりなかったのではないかと思います。

（私自身がそうでした…）それは、授業は学問の基礎を学ぶところであり、成長は基礎を活かして、応用を自分なりにできた時に感じるものだからだと思います。社会

に出るからはまさにその応用の連続です。これまで高専での7年間で積み上げてきた大いなる「基礎」を活かし、社会で「応用」し、実践的技術者として大きく成長してくれることを願っています。

これからも様々な環境変化が皆さんの前にも表れるでしょう。仕事だけでなく人生において、どのように環境に適応し、さらには自分自身でより良い環境にしていくことができるか、環境をつくっていく力があるか、が問われる時代になったと言えるのかもしれない。是非、「偶発的な環境」を楽しんで、自分の人生を豊かなものにしてほしいと思います。そのためには、その人自身の情熱や勇氣、何より信念・理念が大切だと思います。私も学生時代の恩師に『設計（デザイン）をやるなら自分の「フィロソフィ（理念）」を持って』とひたすら言われ続けてここに立っています。

きっとそれを自分自身で少しずつ育てること、「自分」というものをしっかりと確立することが、立ち足る不安に立ち向かう力、覚悟を持って新しいことに挑戦する力、目の前で起きた予測できないことを楽しむ力をくれると思います。

自分で自分の限界をつくることなく、常に限界のちょっと先へ挑戦する。その積み重ねが後に未来を切り開くタカラになります。そして、正しいことを正しくブレずにやり続けていれば必ず同じ志を持ったエネルギーのある人たちが集まります。今後の社会は物事に対するこのエネルギー（熱量）をどれだけ持てるかが大事だと思います。（エネルギーを持つためには、何より自分自身が楽しいと思えることをやるのが大切！）故に、高専で共に学んだクラスメイトも含め、志を同じくする仲間は一生涯のタカラです。そのためには感謝を忘れず人の気持ちをしっかりと捉えらえる目と心を是非社会で培ってください。高い専門的知識・技術を持ったうえでそれが出来るようになればITやAIがいかに進歩しようが、その一歩先をいける人材になれるます。

常々言っていますが、私は、建築はそのもの自体が未来に残る素晴らしい仕事、人や社会の未来を変える力があるのだと信じています。だからこそ責任感を使命感をもって仕事に取り組んでください。みんなが夢を見る社会・未来をつくれる建築人になってください。そして、自分自身を世の中を、「幸せ」にしてください。

改めて修了おめでとうございます。皆さんの今後益々の成長とご活躍を心より祈念し、お祝いの言葉にかえさせていただきます。



卒業記念

ありがとう都城高専

機械工学科 5年 瀬戸山 駿太郎



担任の瀬川先生から今回の学園だよりのお話を頂いた時、私たちが卒業かと寂しく感じました。入学当初では想像できないほど、毎日が濃く本当に一瞬だったと思います。

たくさんの思い出の中で一番は体育競技会で団長を務めたことです。昨年の団長から来年の団長は駿太郎に任せたいと言ってもらった日から、1年間ずっと3冠制覇のことだけしか考えられませんでした。夏休み明けから演舞練習が本格的に始まり、勉強やバイトで忙しい中、練習に参加してくれた仲間たちには感謝しかありません。ありがとう。初めて演舞をする2年生から「なかなか覚えられないから教えてほしい。」と、寮内の廊下でスピーカーを使って一緒に練習した日もありました。当日まで一週間をきって、また一つ気持ちを高ぶらせた時でした。機械工学科の応援団で体調不良者が増え、当日に演舞が実施できないことが決まりました。前日練習で大きな太鼓の音に合わせて演舞練習をする他学科を見たとき、今まで必死について来てくれた仲間たちに申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。しかし仲間たちからの「団看板と競技優勝は絶対にとろう！」という前向きすぎる声かけに、「ほんとや、まだ始めっすらいわ」と私の中の熱いハートが再び目を覚ました。迎えた当日は、会場の盛り上げに徹して常に笑顔であることを忘れませんでした。そんな私にどこまでもついてきてくれ

た仲間たちのおかげで団看板と競技優勝の2冠をなんとか掴み取ることができました。

先生方のご尽力もあり、別日で開催された機械工学科の演舞にはたくさんの人が足を運んで頂き、愛されているなど感じました。

最後に中学卒業からの大切な5年間を都城高専で過ごせたことを誇りに思います。両親、友人、先生方、支えてくれた世界中のみんなにありがとうの気持ちでいっぱいです。卒業は別れの瞬間でもあります、同時に新たな始まりでもあります。これから新しいフィールドに飛び込む強い勇気を持ち、恐れずに常に挑戦し続けたいです。



Dear E-ladies and gentlemen

電気情報工学科 5年 大内田 健太



5年間という月日を振り返ると、いくらでも思い出が浮かぶ充実した日々だったと感じます。私の好きなどこかの誰かの問答に、「大人になるのはいつか？一子供に戻りたいと思った時だ。」といったモノがありますが、高専において大人にならずに済んだのは私に関わってくれた皆さんのおかげです。ありがとうございました。

高校と比べて色々特殊なこの学校への入学当時、早くクラスに馴染みたいと気合を入れていた私が級友に対して初めて抱いた感情は、これからこの人たちとやっていけるのかという不安でした。長らく続いたあまりに静かな教室と、モーセでもいるのかというくらいに分断されたコミュニティ。5年という月日をほぼ同じメンバーで過ごす以上、ちょっとコレはきついかもと休み時間の度に感じていました。しかしスマホを没収されたり、文化祭準備で不穏な空気が流れたり、多くの学校での醍醐味を通して関わり合う中で、気がついたら親しくなっていてすごく安堵したのを覚えています。当人たちにも言っていることですが、今私がよく話す人がかつて絶対関わりたくないと思ってい

た人であったり、4年になるまで知り合い程度の関係だと思っていた人だったり人生分らないものです。

さて、卒業してしまえば各々の選んだ進路で、ほとんどの人が新たな人生のスタートです。生涯の体感時間も折り返しです。進路に対しての不満や不安があったり、昔思い描いていた自分とのギャップがあったり、このわずか数年で人生が大きく左右されたために、これらに対して私自身を含めぼんやりとした絶望感を持っている人も少なくないかもしれません。しかし、これまでの学校生活（レポート、テスト・・・etc）で、大抵のことは意外となんとかなることを何度も経験してきたと思います。やりたいことにどんどん挑戦して、楽しく自分の道を創って、またどこかで再会したときに話をしながらご飯でも食べるのを楽しみにしています。最後に改めて、私たちに直接、間接問わず関わって下さった皆様には心からの感謝を。ありがとうございました！

卒業記念

全ての出会いに感謝

物質工学科 5年 藤森 大志



高専に入学してから5年が経とうとしています。自分の中で高専生活の記憶を遡っていくと多くの思い出がありました。1番古い記憶は、1年生の前期中間試験です。中学時代と大きく変わって、試験科目数が増え勉強量も増えました。自分はその変化についていけず、試験後に返却された解答用紙には中学時代の自分なら取るはずの無い点数ばかりで、あまりのショックにテスト返却後の数日間は、視界に映る赤いもの全てが赤点を想起させ、これからの高専生活に不安を募らせていたのを今でも思い出します。そして、その次に古い記憶と言えば、1年次の文化祭の劇「白雪姫」です。この劇では、クラスメイト全員で協力する初めての行事であり、皆との親睦が深まった良い文化祭でした。新型コロナウイルスの影響による遠隔授業の明けた3年次、4年次の文化祭では、物質工学科ならではの3年生学科開放、4年生研究発表を行いました。これまでの授業や実験で学んだ事を生かす事の出来た出し物となりとても良かったです。最高学年である5年生では、卒業研究が始まりました。今までの学生実験とは異なり卒業研究では、

与えられたテーマに対して自ら考え、結果を得ることが求められました。休日や平日夜遅くまで学校に残って卒研をしても結果が上手く出ず、年末も卒研をしては、教務係の職員に心配されたのは今となっては良い思い出です。最後に、5年生の体育大会では、初めて応援団に参加し、演舞を踊りました。自分は演舞の覚えが壊滅的に悪く、同じ応援団のメンバーに付きっきりで教えてもらい本番ギリギリで綺麗に踊れるようになりましたが、今ではその演舞も忘れてしまい、全く踊れません。応援団に参加したことで他学年との交流も出来、クラスメイトとの親睦もさらに深まり、いい経験になりました。

そんな沢山の思い出を作ったクラスメイトとは4月からは別れ、新しい就職、進学先で、それぞれ仕事や学業に励むこととなります。今の自分は、4月からの新生活への期待より、皆との日常がなくなってしまう喪失感のほうが強いです。皆との出会いに感謝し、今後の新生活を頑張っていきたいです。

逆さまピースはA科のA

建築学科 5年 溜池 琉人



この高専に入学して5年目、ついに念願のクラス委員長に就任できたこと、まずクラスみんなに心からの感謝を述べたいと思います。ありがとうございます。僕の前任であった兒玉君の思いを引き継いでこの卒業記念文をつづらせていただきます。

1年生の時、皆さんこの学校に青春への期待と未来への希望を抱いて入学したかと思います。そして青春の代名詞である文化祭、みんなで「今日から俺は」の劇をしましたね。楽しかったです。私はオチとして男子唯一のセーラームーンの役で体を張って出演しましたが、持ち前の声の小ささと、セーラー戦士をサポートする黒猫「ルナ」役でサブライズ出演した吉井先生のインパクトで誰の記憶にも残らなかったことをよく覚えています。当時は悲しかったですが、今となっては先生に感謝です。

さて、クラスの団結力も高まり2年生に入ったころ、コロナで学校がほとんどなくなりました。とても暇でした。

3年生の頃は、中島君が全身タイツドラえもんになりましたね。

4年生の頃は、皆さん学校の中心になってきた年頃で高専祭も任され、応援団もたくさんの方が頑張りと、インターシップなどに行き自分の将来について深く考えました。

いよいよ永遠に続くかと思われた5年間が終わります。1年生の頃にみていたようなかっこいい5年生になれたでしょうか。上級生になってもあと何単位落とせるか、あと何回授業休めるか、課題を見せてくれ、テスト範囲を教えてください、最近マジ金欠、学校だるいとか言ってる変わらない友人たちを見られなくなるのは少し寂しい気がします。毎回の製図課題で、計画性の無さからしてしまう締切日直前のオール模型作り。テスト期間に毎回みんなでこうすればいけると計画を立て、結局予想通りいくわけもなくオールする羽目になるテスト前日。色々なことがありました。全部これから先もふと思い出す気がします。

これからそれぞれの道に進みますが、ふとした時に出会っても恥ずかしくないような自分でいられるよう頑張ります。関わって下さったすべての方々へ感謝を申し上げます。最後の言葉とします。

修了記念

専攻科修了にあたって

機械電気工学専攻 2年 岩永 明大



7年間の高専生活もいよいよ集大成を迎えようとしています。7年前の自分は、まさか専攻科まで進学して本学で7年間も学ぶことになるとは思ってもみませんでした。しかしながら、いまとなつては専攻科へ進学し7年間学ぶ選択をしたことは間違っていなかったと思います。

振り返ってみると、身の回りの環境が大きく変化する中で戸惑いながらも適応しようと試行錯誤した7年間だったと思います。特に、本科4、5年生の時に新型コロナウイルス蔓延によりオンライン授業に移行した際は、システムに不慣れなことや半年以上友人に会えない日々が続いたことも相まって、悶々とした日々を過ごしたことを覚えています。そのような状況下で、友人と協力し励ましあいながら授業やインターンシップを乗り越えたことは非常に貴重な財産となりました。

専攻科では、一人暮らしを始めたことで学業や家事・アルバイトを両立させることに苦労しました。自分のキャパシティを把握したうえで計画を立てることの大切さを知る良い機会となりました。また、それらに割く時間に加えて、研究や進学に向けての勉強時間を確保しな

ければならず、時間に追われる中で将来に対して焦りを感じながら毎日を過ごしたことを覚えております。一方で、自己管理能力を鍛えるよい機会となりましたし、とりあえずやってみようという気持ちを切り替えて物事に取り組めるようになり、精神的に大きく成長できたと思います。

さて、私は専攻科修了後、大学院修士課程に進学します。遠方への進学にも関わらず快諾してくれた両親、多大なるご支援を頂きました指導教員の先生をはじめとした皆様のご協力に感謝しながら勉学に励みます。大学院では、高専時代とまた違った学びや出会いが待っていると思います。それらの貴重な機会を逃さないよう、この7年間で培った能力を存分に発揮したいです。

最後に、7年間丁寧なご指導を賜りました先生方、苦楽を共にしながら時には励ましの言葉をくれた友人、そして温かい支援をいただいた家族に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

専攻科修了にあたって

機械電気工学専攻 2年 谷口 蓮



入学から7年が経ち、都城高専での生活が終わりを迎えようとしています。気づけば人生で最も長く通った学校になっていました。約7年前の入学試験で面接の後、一度集まるように連絡があったのにも拘らず勝手に帰ってしまったことを今でも覚えています。

専攻科での生活を振り返ってみると、違った環境での学びが多かった2年間だったと思います。研究では、本科とは異なる研究室に所属し、本科で行った研究とは違う内容の研究を行いました。研究を進める上で必要な知識が違ったため最初は苦労しましたが、新たな知識や視点を得る絶好の機会となりました。更に、アメリカのシリコンバレーで研修を行い、半導体などのIT分野に関する最先端の技術に触れることができました。特に、コンピューター歴史博物館ではコンピューター産業の歴史と発展を生で感じることができ感動しました。IT産業に関わりたくと考えている人は一度訪れたほうが良いと思います。シリコンバレーでの体験を通して、学ぶことへの情熱が非常に高まりました。

私は専攻科修了後の進路について、大学院進学を選択しました。大学院への進学を決めた理由は、進学する大学院で興味を持った研究内容があり、もっと多くの失敗を経験することが自分の成長にとって最も必要なことだと判断したからです。研究に失敗はつきものですが、私はこれまで失敗から多くのことを学んできました。そのため、大学院でより高度な研究を行うことで、数多くの失敗と成長を経験できるのではないかと考えました。大学院でも、今の研究内容とは異なる内容で研究を行う予定です。専攻科に進学した時よりも大きく環境が変わるため不安もありますが、大学院での学びに胸を躍らせています。

最後に、7年間の学校生活と3年間の研究活動において、お世話になった先生方、決して要領の良くない私に諦めず勉強を教えてくれた友人、そして常に私のやりたいことを後押ししてくれる家族に心から感謝します。皆さんから受けた恩を胸にこれからも学び続けていきます。ありがとうございました。

修了記念

高専生活を振り返って

物質工学専攻 2年 長友 彩華



いよいよ7年間の都城高専での学生生活が終わりを迎えようとしています。7年間という長い時間があったという間に感じたのは、都城高専での学生生活が本当に充実したものであったからだと思います。

本科での5年間は、学業や部活動に加え、学生会活動や学校行事など様々なことに全力で取り組みました。特に陸上部で過ごした時間は、私の人生の中でかけがえのない時間となりました。辛いことや苦しいことも多くありましたが、大会で入賞できたときや九州沖縄地区高専大会で女子総合優勝を果たしたときの喜びや達成感は今でも忘れられない思い出です。陸上部で目標に向かって努力した日々は、確実に私自身を強くしてくれました。

専攻科での2年間は、レポートや研究などに追われる毎日だったと感じています。研究が滞ってしまうことや就職活動で苦しい時期もありましたが、先生方や周りの友人たちに支えられてこの2年間を乗り越えることができました。研究セミナーや学会での研究発表

は、効果的な資料の作成やプレゼンテーション能力の向上に繋がりました。また、他高専や大学院の方々との交流を通して多くの発見や刺激を得ることができました。専攻科では将来に活かせる質の高い経験を積むことができ、専攻科に進学して良かったと心から思っています。

都城高専で過ごした7年を振り返ると、本当に充実した日々だったと改めて実感しています。学業や研究、部活動に熱中した日々や、大切な友人と楽しい時間を共有した日々は本当に幸せな時間でした。都城高専で得た貴重な経験や学びを活かし、これからも成長し続けたいと思います。

最後になりますが、私がこのように充実した学生生活を送ることができたのは、周囲の方々のおかげです。7年間丁寧にご指導していただいた先生方、どんなときでも一緒にいてくれた友人、私をいつも応援し優しく見守ってくれた家族、私を支えてくださった全ての方々へ心より感謝申し上げます。

専攻科修了にあたって

建築学専攻 2年 今村 真之祐



いよいよ7年間にわたる高専生活が終わりを迎えようとしています。人生の約3分の1をこの都城高専で過ごしたことになります。入学当時の私は高専のことをよく知らないまま、なんとなく興味を持っていた建築学科を選びました。今思い返してみるとその選択は間違っていなかったと感じています。

専攻科の2年間では、杉本研究室に所属し、防災について研究をはじめ、学会発表や設計競技への参加、研究室でのワークショップなど本科生の時とは異なる1段階レベルアップした中身の詰まった充実した学生生活を過ごしました。人前に立つことが苦手な私でしたが、専攻科では人前で発表する機会が増え、建築を通して多くの友人、先生方、まちの方々に出会うことができました。また、1級建築士試験、2級建築士試験に挑戦しました。結果は2級建築士の資格は取得することができました。しかし、1級建築士へはあと1点及びませんでした。人生においてはじめての不合格

でした。専攻科では全てが初めてのことばかりで毎日が一瞬で過ぎていくような感覚に追われながら、自ら課題解決に向けて考え実践し、人としてさらに強くなれたと感じております。この2年間の経験は私の人生においてかけがえのないものです。

私は専攻科修了後の進路として、地元都城市役所への就職を選択しました。大好きな地元都城へ恩返しをするとともに、建築を通してより豊かに、そして笑顔が溢れるまちにしていきたいと思ったからです。何十年か先の未来の私と都城に住む人々がこの選択は間違っていなかったと思えるようにこれからも努力を続けていきたいと思います。

最後になりますが、多くのことを学び充実した学生生活を送ることができたのは、指導教員の杉本先生をはじめとする先生の皆様方、友人、家族の支えがあったからこそだと感じております。すべての皆様へ心より感謝申し上げます。

特集 I 文化祭 文化祭実行委員長挨拶

「剛と柔」

文化祭実行委員長挨拶 山下 源

2年間に渡り務めてきた高専祭、文化祭総務の役目を終えました。達成感や緊張からの解放による安堵、忙しく充実した学校生活への別れによる寂しさなど、いろんな感情が出てくるとともに、今後の人生に影響を与える多くの発見もありました。その中でも、今まで自分が持っていた考えと180度異なるものがありました。それは「後ろから支えるリーダーの形もある」という事です。一見、そりゃそうだろ、当たり前でしょ、と思うかもしれませんが、僕にとってはこれが結構難しくて、実行委員長というリーダーの役が与えられた時の僕の持ったリーダー像は、全体の前に立って、俺についてこいというスタイルでした。リーダーが率先して動きそれにより周りが感化されて組織に熱と勢いをもたらし物事を成功に導いていく。それこそがリーダーだという考えが強くありました。そんなリーダーを自分もやらなきゃいけないという責任感から、自分が先に動くことで組織を前進させる形態を初めはとっていました。しかし、残念なことに僕の手と足は2本ずつしかないし、時速60km/hで走ることもできなければ、文章を作るにも、情報を全体に伝達するにも1人では時間がかかります。自分の動ける範囲が限界を迎え、1人ではどうもできない状況になりました。そんな時、全体の一步前に出ていたところから二歩下がり、全体を引っ張る位置から全体を見渡す位置に立つと、実行委員という組織のバランスを視ることができました。ここはこの局に、これはこの学生に任せようということが増え、全体的に実行委員を動かすことができたと感じています。自分の手をかけないということは不安であったり心配があったりと勇気のいる判断でしたが、不安も心配もなく進めていたのは互いに信頼関係のある最高のメンバーだったからだと思います。先頭に立って力強い行動で引っ張りつつ、周りを視て周りを活かして冷静さを持つリーダーが最強だなと気づけました。今までずっと前を向いて突っ走っていきなかつた僕に、周りを見渡す視野とバランスよく整理しながら動かす力、余裕をもたらしてくれたこの実行委員長という経験は、これからの僕の人生に大きく影響を与えたいと思います。本当に頑張ってきてよかったです。「はやく行きたければ1人で行け、遠くに行きたければみんなで行け」という言葉がある通り、大きなことを成功させるには多くの人たちの協力があったのでした。文化祭に関わってくださった皆さん本当にありがとうございました。また、来年度の高専祭も素晴らしいチームで創っていくと思うので、来年度もご協力をお願いします。めちゃくちゃ期待してます。



機械工学科 『黑板消しクリーナーの改良』

瀬戸山 悠貴

私たち4年機械工学科の研究テーマは黑板消しクリーナーの改良です。皆さん、「チョークの粉を吸ってくれないよ」と感じたことはありませんか？私たちが普段使用する黑板消しクリーナーは、数秒程度で済むはずの掃除が数十秒掛かります。そこで何が黑板消しクリーナーの吸込み力に影響を及ぼすのかを考え、三次元モデルによる設計を行い問題点を明確にし、そこから再び設計を行いました。

結果として私達は「振動」に着目し、黑板消しクリーナーに振動を起こすことができるような装置を取り付け吸込み力の向上を図ることになりました。振動を起こす装置には3Dプリンターを用いて作成した部品と、ゲームのコントローラーから流用した部品を使用し、配線の組みなおしを行いながら黑板消しクリーナー本体に装着しました。

そして実験結果としては、「振動はチョーク粉を良く落とし吸込み力の向上に影響しそうだ」という結果が得られました。ただしもう一方で、装着した

装置が予想よりも大きく、装着のために本体の拡張を行ったため隙間ができ、内部の圧力が低下（黑板消しクリーナーは圧力差によって吸収力を生み出す）が起きてしまい、振動の影響を確かめることはできたものの吸込み力は下がってしまいました。

今後の展望として、この黑板消しクリーナーを改良する機会があれば装置は小さくし、さらには騒音や粉が舞う等の課題も同時に解決したいと思っています。

最後に今回の研究発表の取り組みを通して、チームワークの大切さや「ものづくり」とはどのようなものなのかを改めて学ぶことができました。



電気情報工学科 『それいけ！ウンパンマン』

水元 栄一

私たち4年電気情報工学科は、オープンソースAI「Donkey Car」を用いて、自動運転を可能とする「ウンパンマン」を作成しました。このウンパンマンは、高専生に欲しいものを届けるという目的のもとに開発されました。なぜわざわざ届けてもらうことを目的にしたかという点、今年、高専から売店が無くなってしまったからです。今まではお腹がすいたらすぐ近くの売店に買いに行けば良かったのですが、無くなってしまった今、近くにあるのは数分歩いた先にあるコンビニぐらいです。休み時間を使って行くのは少し遠いです。そのような問題を解決するために、コンビニに向かなくても欲しいものが買えるようにしたいと考え、ウンパンマンの作成を決めました。

ウンパンマンの構造は、モーターの制御などを行う Raspberry Pie、本体内部にはモーターや Raspberry Pieを動かすモバイルバッテリーが搭載されています。今回は、あくまで自動運転の研究がメインなので、ウンパンマンの車体は既製品のラジコ

ンを分解して使用しました。

AI自動運転には、オープンソースのDonkey Carをベースとし、それをカスタマイズして実現しました。このDonkey Carは、Raspberry Pieのカメラで撮影した、画像データとその時のスロットルの量を記録したデータセットを、Googleが提供している機械学習のためのソフトウェアライブラリ「Tensor Flow」（テンソーフロー）で学習させ、それを基に自動運転を行うプラットフォームです。

学習させるには、まずウンパンマンをコントローラーで動かし、1秒ごとのカメラ画像とスロットル量を記録し、そのデータをTensor Flowで学習させ、「学習済みモデル」を生成します。そして、その「学習済みモデル」を呼び出し、自動走行をさせます。なお、自動走行時には、Webブラウザで走行画像を見ることができるようになっています。このような学習を繰り返すことで、より正確な動作をするようになります。

物質工学科 『光触媒機能をもつ漆喰による畜舎臭気抑制』

岡原 芳良 球仁郷 明里

都城高専のある都城市は、皆さんご存知のように、畜産が盛んな街です。しかし、現状では、家畜の排出物や堆肥による悪臭により苦情が寄せられているほど、悪臭が問題となっています。

こうした問題を解決するために、私たちは古くから日本の建築素材として用いられてきた漆喰に加えて、光を当てること触媒機能をあらわす光触媒に着目しました。漆喰には化学物質の吸着機能があり、臭気成分を漆喰に集めることができます。しかし、吸着量には限界があり、ある程度吸着すると放出してしまいます。そこで、紫外線と反応して有機物を分解する光触媒の酸化チタンを用いることで、漆喰が集めた臭気成分を放出する前に分解し、且つ、漆喰が臭気成分を集めてくれることで効率の良い臭気成分の分解ができると考えました。

本研究では、臭気成分として、トリメチルアミン、アセトアルデヒド、プロピオン酸、アンモニ

アの4つを扱いましたが、いずれも漆喰に吸着され、酸化チタンを付加した漆喰で光分解することができました。また、光分解した際に、これらの臭気成分から水素が発生したことは大きな発見となりました。

私たち4年生は高学年という立場ですが、研究に関しては初心者で、右も左もわからない状態でした。本研究を進めるにあたり、多くの方々にご指導ご鞭撻を賜りました。物質工学科の山下先生には終始熱心なご指導をいただき、また、牛舎の臭気成分測定を快く受け入れてくださった畜産農家の吉元様、測定にあたり、測定機器をお貸しくださり、ご指導いただいた建築工学科の牟田先生にも大変お世話になりました。心から感謝いたします。最後に、山下研究室の皆様には、多くのご助言、ご協力いただきました。本当にありがとうございました。応援してくれたクラスのみならず本当にありがとうございました。

建築学科 『すくすく育てたい竹の魅力』

佐伯 麻緒 津曲 風花

私たち4年建築学科は、日本全体で深刻化している放置竹林問題に着目し、問題視されている竹をどうにか活かさないか考えました。そこで、弾力性が高く耐久性や衝撃吸収性に優れているといった建材に向いている特徴を活かし、構造物としての可能性も感じられる「竹のブランコ」を制作しました。

自らの手で竹狩から行い、接合部に金具を使わずロープのみで組み立てるなどのこだわりを持ちながら製作し、安心して皆さんに体験してもらえるよう強度の実験も行いました。竹狩では普段立ち入らないような山に入り、直径20cmもある竹を扱った為、初めての体験で苦戦しましたが、とてもいい経験になりました。強度実験後の強度の算出の際には、竹の場合での公式がなく、最近発表された論文レベルの内容であることが分かり、大きな壁にぶち当たりました。(どうにかこうにかして出しましたが、正確なので安心して下さい…)文化祭に加え、Mallmallまちなか広場でのイベントに参加し多くの人に体験してもらうことが出来ました。

今回作った竹のブランコは、イベントなどで使われる短期的な構造物になります。やはり長期的に荷重のかかる構造物の素材として使用するには、防虫や防腐、乾燥によるひび割れを防ぐなども視野に入れて考える必要があるため、実現にはもう少し技術と時間が必要になると思います。今後、日本で問題扱いされている竹が資材不足を解決できるものとして使われるようになればいいなと思います。

最後に、この研究発表を行うにあたってご協力頂いたクラスメイト、技術職員の先生方や建築学科の先生方、皆さんの協力なしではやり遂げられることが出来なかったと思います。本当にありがとうございました。



★機械工学科3年★ 『学内で最も慕われるクラス3年機械工学科』

川原 尚悟

「3Mはとてまかつこよくておもしろくてほんとに憧れる。」

3年機械工学科と聞くと都城高専に通う学生はこう思うだろう、なぜなら我々3年機械工学科は学内のみならず、都城、いや世界に誇れる人材を教育、輩出している。

例えば来年度の高専祭の実行委員のうち14.7%を3年機械工学科が占めている。実行委員長も3年機械工学科の種子田君である。

他にも、学生会役員にもクラスから6人が選ばれている。そう、つまりこの学校行事の運営には必ず3年機械工学科が携わっている。

しかし、3年機械工学科は非常に成績が悪い。例えば冬休み明けに行われたテストでは、他クラスより20点も平均点が低かった。これは非常に由々しき事態だと思う。だが、能ある鷹は爪を隠すとはこのこと、本気をだせば学年一の成績を取ることなど容易いのだ。ポテンシャルの平均点は学年一だからである。

では、なぜ我々3年機械工学科はこんなにも勉強に対する意欲が湧かないのだろうか？そう、女

子の圧倒的少なさだ。3年機械工学科は女子が2人しかいない、それに比べて男子は40人。これは何かの間違いであるに違いない。この圧倒的女子の少なさが我々3年機械工学科が勉強に対する意欲が湧かず、他クラスの女子にモテるための意欲しか湧かない理由だと思う。そんな3M男子は、かなりモテる。現に3M男子への人気は高まる一方なのだ。3M男子という括りは、都城高専内では某韓国グループと同じように扱われている。はずである。

さて、3年機械工学科について分かりやすく説明してきたが、私は自分のクラスが大好きだ、クラスメイトは個性的な人間ばかりで、毎日面白い事件を起こしてくれるので、毎朝起きた時に学校行くの面倒くさくてもクラスメイトに会うために行く人もいる。のではないかと思ったりしている。

そんな常に教室が汚くて、どこか異臭と異彩を放っている3年機械工学科は、明日も元気に赤点を取ることだろう。

★電気情報工学科3年★ 『3E』

福重 英翔

私たち3年電気情報工学科は、男子29名、女子9名、計38名のクラスです。他のクラスに比べ自由な雰囲気が強いため、それぞれの個性が生きっていて、とても面白いクラスです。行動力が高く、学生会や文化祭等の局員で活躍している人、部活やイベントで結果を残している人、趣味に没頭している人などいろんな人がいます。みんな仲が良く、とてもにぎやかで、教室の中はいつも笑顔で溢れ返っています。

高専1年目の私たちは、新型コロナウイルスの影響を大いに受けました。入学してからお互いに打ち解けるのは早かったものの、感染者が増えるたびに遠隔授業となり、次いつみんなに会えるか分からない、そんな状況でした。そんな中でも、初めての文化祭や体育競技会などを経験することができ、行事を通して絆や団結力を深めることができました。特に、文化祭での劇やバス利用で訪れたグリーンランドでは、みんなで計画から準備まで協力して行い、とても楽しい思い出を作ることができました。また、クラスマッチも毎回全力で取り組んでいて、過去、バスケやバレー、ドッ

ジボールで優勝や入賞をしています。他にも、様々なイベントの度に、みんなで協力し、全力で楽しんでいる姿を見る度に、改めて良いクラスだなと思います。

イベントだけではありません。定期試験の成績も良く、答案返却の度に先生方からよくできていると言われます。分からない所をお互いに教え合ったり、テスト期間はみんなで一緒に勉強したりしていることが、そのような成果につながっているのだと思います。

授業は教科によってはしんどいし、実験やレポートはめんどくさいし、高専生活は思っていた以上に過酷ですが、それ以上に38人のメンバーと過ごしている時間はとても楽しいです。毎日幸せでわくわくできるのはみんなのおかげです。この場をお借りして3Eのみんなに感謝の言葉を伝えようと思います。

みんな、いつもありがとう！！

★物質工学科3年★ 『3C』

前園 聖来

私たち3年物質工学科は男子18名、女子13名の計31名のクラスです。

私たちのクラスは、みんな仲良く体育祭や文化祭などの行事は全員で協力して取り組んでいます。

1年生の時は新型コロナウイルスのため学校に行けない期間が結構長かったけど、体育祭や文化祭は開催することができました。文化祭のクラスの出し物である映像作品は放課後に残ってみんなで協力して作成でき、その結果優勝することができました。これで少しクラスの結束力が強くなった気がします。

次に2年生の時は、体育祭ではクラスのほとんどの人が応援団に入りここでもクラスの雰囲気めっちゃくちゃ良くなりましたが、ほとんどの人が応援団をした結果、文化祭のお化け屋敷の進捗が遅すぎて当日の朝まで準備をすることになりました。ですが、体育祭の応援団は優勝、文化祭のお化け屋敷も優勝することができたので、このクラスは多分すごいクラスです。

そして3年生でも文化祭の学科開放は私の見た

感じではどの学科よりもお客さんの人数が多く、大成功で終わりました。

このようにこのクラスはみんなで協力することができてクラス全体の雰囲気もとてもいいクラスです。クラスメイト同士の仲ならどの学科よりも良いと思います。今後もクラス全体でやることはクラスメイトと同士で協力して成功させたいです。

成績面ではいつもテストの平均点ではだいたいE科の次に位置していて、たまに越したりします。テスト前の雰囲気もみんな朝から勉強したり、分からないところを分かる人に教えてもらったりとクラス全体で協力して挑んでいます。

このクラスでいられるのも残り2年間、高専生活は入学してからいつもレポートに追われていて思っていたよりも大変だけど、それ以上に楽しい学校生活を送れているのはこのクラスのおかげだと思います。現状とんでもない人数が留年しているので、これ以上クラスメイトが失われないことを祈りつつ、残り2年間の高専生活を全力で楽しみたいと思います。

★建築学科3年★

『実はこんなクラス』

里岡 慧

私たち3年建築学科は男子20人、女子16人の計36人のクラスです。他のクラスの人達に私たちのクラスの印象を聞くと「静かな印象を受ける」という意見をちらほら聞きます。

しかし、3Aの中に居ると“静か”とは程遠いものを感じます。

私生活ではクラス内で、男子はとても仲が良く共通のゲームで欲しいキャラクターがゲットできた時には肩を組んで喜んでいるし、女子も恋愛の話や色々な話で盛り上がっています。

勉強面では、クラス内で苛烈を極めた順位争いが毎テストで繰り広げられていて、テスト終わりには「〇〇君点数どうだった？」など、相手の点数を探る言葉が飛び交っています。しかしテスト前では、分からない所を教え合ったり、テストに有益な情報を持っていたら共有したりするなど、すごく良い雰囲気勉強に取り組んでいると思います。

学校行事では、クラスで一致団結して取り組んでいます。一致団結で取り組むと言っても「皆で勝とう」と言う訳では無く、「皆で楽しもう」と行事に取り組んでいるという雰囲気を感じます。しかし、クラスマッチでは密かに優勝を狙っていて、今年や

来年あたりで優勝すると思うので要注目です！

これまで言ってきた通り、そう、私たちは“静か”なのではなく、クラス内で完結してしまっているのです。これにより周り自分達との感覚の差異が生じてしまい、周りから静かだと思われてしまいます。その弊害として静かだから取っ付きづらいのか、少し他クラスとの距離を感じてしまいます。たださえ、1クラスだけ棟が離れて隔離されてるっていうのに…なのでこれからは周りから話しやすいと思われ、仲良くやっていけるよう、3Aの魅力を発信していけたらなと思います。

最後に、私たち3Aはとても良いクラスだと思います。様々な個性を持った人達の集まりで時にはその個性が対立してしまい、色々な困難がありました。結局なんとかなってきました。

これからも、色々な事があると思いますが、協力し合って仲良く卒業できたらと思います。

卒業生・修了生のみなさんへ

機械工学科OB 吉永 定晴

私は7期機械工学科の吉永定晴と申します。

今年の1月で70歳に成りました。私が卒業した年はオイルショックで自宅待機・就職取り消しと大変な年でした。私もカネボウから取り消しが来たけれど、山之口にある高砂工業の本社（岐阜県土岐市）に就職する事が出来ました。

4年間本社で勤めた時に円が変動相場制になり1ドル¥360からいっきに¥260まで上がり（今は1ドル¥140前後）会社は東南アジアにも設備を輸出していたので、台湾の合弁会社で機械・設備を作り、台湾では間に合わない機械等は日本から送り、その設計図を書き直す者が必要となり私が25歳から28歳までの4年間出向しました。

学生時代の1年間は寮生活を送ったのですが、2年になった時点で退寮になり下宿先を探して先輩のつてを頼り、金田に住むことになりましたが、なにしろ縛られた寮生活から解放されたとの思いで同級生が4～5人訪ねて来て、そのグループが帰ると次のグループが夜遅くまで騒ぐので1週間で追い出されました。それから9月まで6ヵ所替り最後は4・5年生が住む（通称吉尾マンション）に入りました。そこは月¥4500風呂なし・共同洗面所・共同便所の所で、ほとんどの先輩が20歳を越え、ある部屋では麻雀・別の部屋では焼酎の飲み方と毎日が賑やかな生活でした。

2年後期から5年卒業まで吉尾にいて、今も15年以上、年2回のプチ同窓会を開き飲んでいます。

学生時代はテスト前の一夜漬けと追試で明け暮れて、3月になると大阪に鉄筋屋のバイトに行き、進級してない場合はこのままここで就職と考えていたほどビクビクしていました。卒業してからも睡眠中にハット起き上がりテストの勉強をしなくてはと思った事が数年続くほどでした。

就職して、会社では初めての高専卒の社員と期待されていたので、学生時代と打って変わり仕事に励みました。一応、設計部に配属される前に現場での研修が1年間有り、お陰様で実習工場の先生達に仲良くして貰ったお陰で、溶接、旋盤、フライス盤等一応使えるようになっていたので、「高専生はなんでもできる、大学卒は何にもできない。」と言われる始末。でも1年後、設計部に配属されて学生時代の勉強不足の付けが回って来ました。機械だけでは役に立たない、電気で機械を動かす要望に有った仕事を機械にさせる、そのために機械科で学んだと改めて思いました。40年前にはCADはなく設計図は手書きで書いていたので大変でした。

私の1年後に鶴岡高専の機械工学科から2名、その後岐阜高専から1名・都城高専から2名入社しました。

今、宮崎でクリーニング店を開業して40数年経ち現在に至ります。

仕事は寝具類・ぬいぐるみ・着ぐるみの丸洗いを専門にして、近頃はUMKの九州ドキュメントの番組・NHKのおはよう日本とかに紹介され、北海道の長万部のまんべくんから石垣市公認マスコットキャラクター「ばいーぐる」と幅広く着ぐるみ・ぬいぐるみの注文を戴いています。

家族は台湾で生まれた長男が44歳になり1男2女・孫が5人になり、全員家から15分圏内に住んでいます。

今年、高校受験の孫が「爺ちゃんは大変な学校を卒業してたんだね。」と言ってくれるのが少し嬉しくなります。

私の父は20歳から軍隊に行き、物心がついた時から戦時中の話をしてくれて、兵隊時代の友と付き合い15年前にあの世に行ったけれど、その前は戦時中の友の話をよくしていました。娘に言わせると「お父さんの話はじいちゃんの話に似ている」と言います。やはり16歳から20歳まで血気盛んな年ごろを一緒に過ごした仲間は、50年経っても変わらないのですね。

後輩の皆さん、今から就職して別々に分かれるけれど、高専で創った友は一生ものですよ。

10年・20年会わなくても会った時は10年・20年はすぐに無くなり昨日まで会っていた気分になれる友を見つける場所が高専です。

卒業生・修了生のみなさんへ

電気工学科OB 酒井 秀郎

卒業生・修了生のみなさん、ご卒業・修了おめでとうございます。

私は、1993年に電気工学科を卒業し、延岡で某企業に勤めながら、現在、深山会延岡支部長を務めさせていただいております。

今回、この執筆依頼を受け、ご卒業・修了したばかりの皆さんへ何を伝えるべきなのか考えた中で出した結論としては、社会人としての心構えです。会社生活30年経過した私が客観的に俯瞰し思うことですので、気楽に読んでいただけると幸いです。

一点目は「元気」であることです。あるプロレスラーの「元気があれば何でもできる」との名言がありましたが、この言葉に虚偽りはありません。内面から溢れ出す気力の源は元気が一番であることに間違いはありません。しかし、内向的な性格であると気兼ねしてしまい、今後訪れる様々な場面において躊躇してしまいます。そんな時は、気持ちを奮い立たせ、遠慮することなく大きな声で対応すれば良いです。その一つで自分も変われ、周囲の見方も随分変化することでしょう。

二点目は「積極的」であることです。元気があれば何事も円滑に進むのかと言ったら、そういうわけでもありません。入社して間もない状況であれば右往左往することは当然であり、自分自身のベクトルをどの様に設定、実践していくかが重要になります。周囲へ確認するのか、または、教えてくれるのを待つのかと考えた時、迷わず、周囲へ確認してください。

三点目は「努力」することです。わからなければ何でも聞けばよいと考えるのも早計な話です。自らの技術として確立するには他人から教えてもらうことだけを考えず、自分で深く考えることも重要です。また、人から教えてもらうことも重要であります、しっかり腹落ちするまで理解することが大事です。

簡単に記載していますが、慣れない環境に飛び込む皆さんにとっては、これらを実践することは非常に大きな負荷となり、且つ、勇気が必要です。それらについて悩む場面は必然的に訪れます。その時は、決して一人で悩まず、人を頼ることも必要です。現代社会は、物事を覚えたり判断したりする量と速度が数十年前、数年前、かもすれば昨年、昨日とも異なり、確実に大きくなっています。悩むことは仕方のないことなのです。その様な時は、会社の先輩、同期、後輩、都城高専の同窓生など相談すれば良いです。きっと良い解決方法が見つかるはずで、絶対に自分一人で抱え込まず、早めに相談してください。

最後になりますが、これからの人生という名の道に、間違いなく壁は立ちはだかります。その壁はとてつもなく高いかもしれませんし、分厚いかもしれません。しかし、それら壁は乗り越えられる人にしか来ません。諦めることなく、何が何でも乗り越えてほしいです。期待しております。また、私は常々「継続は力なり」、「常に挑戦する気持ちを忘れず」、「偉ぶらず謙虚であれ」を心に刻み、社会生活を過ごしています。皆さんも社会人として落ち着いてきたら、この言葉も思い出してください。よろしく願います。

追伸です。深山会延岡支部では毎年11月に同窓会を開催しています。今年度は4年ぶりに開催し、コロナ禍で途絶えていた各人の話題を多いに語りつくしていただきました。この同窓会は、様々な業種で働いている都城高専OB・OGの皆さんとの交流の場となり、貴重な情報が盛りだくさんです。延岡、日向およびその近傍で仕事をされる方は是非ともご参加ください。こころより、お待ちしております。

申込は右記HPアドレスより願います。⇒ <https://nobeoka-miyamakai.net/>



子育て親育ち

宮崎支部 松本 祐子

娘が都城高専の建築学科を志望する背景には、私たち家族に寄り添って家を設計したい、という建築士と私たち家族との深い絆が影響しています。湘南のリベラルな環境で生まれ育った娘は、5歳の頃に宮崎県への移住を経験しました。この移住は、家族で新しい住まいを築き上げるという大きなプロジェクトの始まりでした。娘も一緒に建築士との打ち合わせやショールームの見学、そして私たち家族の食や音楽など好みを理解し合う大切な時間を共有しました。当初は単なる住まいづくりのプロセスとされていたこのセッションが、娘の将来の夢に繋がるきっかけとなるとは、私たちも予測できない驚きでした。

宮崎県での生活は、娘にとって真面目で努力家、感受性が強く優しい性格を形成する土壌となりました。小学3年生の頃、文化祭の作品に、「建築家になりたい。」という夢を綴っていたことを今でも鮮明に覚えています。この頃から娘は読書家としても目覚め、好きな建築家の書籍を読み始めました。本を通して、たくさんの旅を楽しみ、様々な建築家と出会い、夢や理想を抱いていたと思います。

中学では吹奏楽部の部長を務めました。受験に向けて勉強に励む同級生たちとは異なり、受験間際の12月24日に行われた「宮崎県アンサンブルコンテスト」への出場を希望し、卒部後も下級生とともに部活に打ち込んでいました。都城高専への入学願書はWeb申請だったため、私は受験生の親としての自覚を持たないまま、娘が入学試験に臨む1月7日を迎えました。都城高専のアドミッションポリシーを心に留めた娘の力を信じて応援するしかありませんでした。試験の面接終了後「楽しくて時間が足りなかった。」と、輝かしい笑顔で話す娘の姿に、先生方との喜ばしい出会いを感じました。

感謝すべきことに、都城高専への入学が決定し、中学では校内初の合格者となりました。娘は、自ら寮に入る決意を表明しました。夜勤をしている看護師の私にとっては、お弁当や通学の心配は軽減され、不安や寂しさもありましたが、娘に対する感謝の気持ちで胸がいっぱいでした。環境の整った寮での生活に親子で期待を寄せ、新たな学び舎での日々を胸を膨らませました。娘の決断に私自身も親としての学びや成長を実感しています。

入学後は、建築学科での学びはもちろん、寮生活やロボコンへの入部など、娘は数多くの出会いと経験を通じて日々成長しています。吹奏楽部からロボコンへの転身は予想もしていなかった展開でしたが、娘の人生と選択を精一杯応援することを決意しました。帰省のたびに、学業やロボコン、寮での食事の美味しさ、学校のイベントについて熱く語る娘の姿は、たくさんの友達や先輩、先生方との絆が芽生えている証だと確信し、感謝の気持ちでいっぱいです。その出会いを通して、更に専門分野の知識を広げたり深めたりして、自分の可能性を最大限に引き出していくことでしよう。

残念ながら仕事で参加できなかった、文化祭や体育祭も、娘にとってはこれまでにない楽しさと充実感をもたらしたようです。後援会の皆様が協力をして作ってくださった「カレーうどん」も、とっても美味しかったです。ありがとうございました。来年は夫婦での参加を心に決め、娘の活動を家族全体でサポートしようと思います。世間を騒がすニュースに対する心配もある中、素晴らしい先生方からの指導を信じ、これからの都城高専での日々が、娘と共に学ぶ仲間たちにとって実り多いものとなり、将来への素晴らしい道を拓いていくことを期待し、応援し続けていこうと思います。

息子について思うこと

宮崎支部 雀部 国男

年月の経つのは早いもので、我が家の愚息も成人式を迎えるまでに成長した。この度頂いたこの機会に、彼について感じることを述べてみたいと思う。

まずはその見た目だが、細身のボディが水泳を始めてから徐々に大きくなり「このままだと逆三角形の細マッチョに…」との期待を裏切って、家族からゴリマッチョと畏怖される程ワイルドな男に成長してくれた。一応人並み以上の腕力ありとの自負があった父を腕相撲でいとも簡単に撃破。(ちなみに父はリベンジのためジムでの筋トレに励んでいます。)加えて宮崎～延岡をママチャリで走破してしまう脚力を手にいれたようだ。

そのワイルドなルックスからは想像しにくいのだが、5～6歳くらいの子供に好かれるようである。そのふくよかな顔つきからお腹を空かせた子供に自らの顔をちぎって与えるヒーローを連想させること以外に何か理由がないか考えてみた。その強靱な体躯を手にしたことで生まれた心の余裕が無垢な子供たちに安心感を与えるのかも知れない。

性格面に目を転じてみると、一番に感じるの思い切りの良いところだ。やりたい事は必ずやる。リサーチを幾度も重ね、万全の準備を整えてから手を付ける。が、始めてしまえば勢いに任せてどんどん前に進んでいく。その様は勢いが良すぎて爽快でもあり、羨ましくもある。その徹底ぶりがよく出ているのが趣味である釣りへの取り組みだろう。どんな種類の魚がいるのか、どんな道具があれば釣れるのか、よく釣れる場所はどこかなど調べることは色々あると思うが、彼は真っ先に魚の裁き方をYoutubeで独

学で学び、自腹で魚を買ってきてその実技を磨いていた。その成果は凄まじく、釣れた魚を持って帰って料理してくれたり、宮崎港で釣れたカサゴを秒で切り身にしてしまうところを見せてもらった。カサゴと言えば鋭いトゲやヒレがあり触るのに注意が必要なのだが、素手のまま「刺さらなければどうということはない」と言わんばかりに鮮やかに捌いていたのには恐れ入った。

このように「デカイ図体が好きな事をやる」ので、彼の学友の皆様はさぞ大変なのではないかと入学当初は心配していた。ところがそれを笑って受け入れてくれる懐の広い人が沢山おられたようで、彼の話には覚えきれない程の先輩、後輩、同級生の名前が出てくる。「〇〇さんにご飯連れていってもらった」「〇〇と〇〇と一緒に〇〇のところに泊まりに行ってくる」そんな言葉を聞いていると、数多くの出来事を共有し、衝突や助け合いを繰り返して結束を固めてきたのだろうな、楽しそうだなと羨ましい限りである。彼の人生のページを飾って頂いた皆様、本当に有り難うございます。

これまで勝手に思うところを述べてきたが、最後に彼本人に向けての言葉を綴りたいと思う。この先、多くの出来事が待ち受けている筈で、しかもそれは楽しい事ばかりではないかも知れない。しかし、その体力・知力、そして高専での経験・人脈を駆使して力強く前に進み、その体験を糧として成長してくれればと強く思う。そして父は言うだろう。「見せてもらおうか、更に成長した人間力とやらを。」

天高く

鹿児島西支部 佐々木由香

澄み渡る青空の下で行われた体育祭。息子が入学から3年目にして初めて、参観できた体育祭でした。

息子から送られてきたプログラムは、自由な校風らしい興味をひかれる種目ばかりで当日がとても楽しみにしていました。

久しぶりに早朝よりお弁当を準備して、家族で一路都城へ。プログラムと一緒に送られてきた『来なくてもいいよ』との息子からのメッセージ。きっと、2日後に行われる文化祭のカレーうどん作りにも参加する労いと、遠方より来ることへの配慮だったのだと勝手に思っています。

学生主体で進められる自由でゆったりとした体育祭は、見守って下さる先生方のおかげなのだと、とても温かい気持ちになりました。

種目も学生がアイディアを出し合い考えられたのでしょう。障害物競走での顔を真っ白にしながら飴玉を探す姿は、選手のパフォーマンス力と昔の運動会を思い出す懐かしさで観客席からも笑いが沸き上がっていました。

学科別に披露される応援団演舞は圧巻でした。何度も練習を重ねてきたらうと想像のつく団結力、細部までこだわった表現力でした。他にも個性豊かなたくさん競技が行われとても楽しめました。

揃いのTシャツに美しい秋空、黄緑色の銀杏とのコントラストに眩しさを感じつつ、コロナ禍の息苦しい生活を駆け抜けた彼らを深い気持ちで写真に収めました。

学校や寮での生活を語ることの少ない息子の成長の一端を、この体育祭により初めてうかがい知ることができたように思い

ます。

帰省の度に遅しく成長している様子を感じていますが、それを学校行事の中で目にする機会が減ってしまった残念さを今回の体育祭で少しだけ取り戻せたように思います。微笑ましくも素晴らしい体育祭であったと感じました。

自由な学生たちの姿を目にし、想像力を引き出し、個々の才能や特技を発揮する機会を与えられている環境に感動して、保護者としてより一層感謝をする機会となりました。先生方には常に温かいご指導、励ましの言葉や理解の手助けをしてくださり、心からの感謝の気持ちでいっぱいです。

最後に人生の可能性は無尽大です。学びが夢や希望を後押ししてくれるものと信じ、時には周りからの協力やサポートを活用して新たな経験をたくさんしてください。

学生のみなさんの未来が輝かしいものである事を願っています。

6人目の息子の成長～都城高専とともに～

鹿児島西支部 下酔尾 恭子

今年で夫の出身地である鹿児島県に香川県から家族と移り住んで約16年が経過しました。私は関西出身であり、子どもたちも初の鹿児島です。移動した時は、一番上の子が中学3年生、一番下の息子は4歳という年齢でした。やはり慣れ親しんだ土地を思うと私も含め、子どもたちも鹿児島に抵抗がありました。でも一番下の息子は4歳ということもあり、何らその辺りの抵抗はなく、すぐ馴染んでいました。今では6人の子供のうち5人はそれぞれ独立しています。家族も全員、鹿児島の地に馴染んできました。

その6番目の息子がまさか隣の県の宮崎県の都城高専へ入学となるとは思っていませんでした。都城という地名は初めて接する地名であり、なかなかイメージの出来ない場所でした。夫に聞いたら、夫の出生地であり、焼酎の“黒霧”が有名であり、また、宮崎県第2の都市でもあるとのことでした。その情報を聞いて入学式に出席しました。都城の町から霧島、高千穂の山々が綺麗に見えて感動しました。

上の兄・姉は鹿児島市内の工業高校・商業高校へ入学し卒業しました。高専の最初のイメージは学生、雰囲気非常にエリート集団に見受けられ、息子は大丈夫だろうかと不安でした。また、今回は入寮するため、毎日の弁当作りからは解放される反面、一番下の子のため近くにいないことが寂しくもありました。ただ、寮、学校施設を見て規律正しく、またいつ行っても元気に挨拶してくれる学生の礼儀正しいことに安心しました。

しかし、学校生活が始まりましたが、コロナ禍の拡大のため、すぐ閉寮となり、自宅でのリモート授業となりました。同校はコロナ対応が非常に厳しく対応されていることに感心させられました。先生、職員の方々の苦勞が感じられ、また学生を思う気持ちに感謝する次第です。このコロナの影響にて本来の

学校生活がスタートされない状況が長く続きました。その中でも部活はサッカー部に所属しました。上の兄弟も運動系の部活に所属して私もその応援、サポート活動が一つの生きがみみたいなものでしたので、大変楽しみな部分でした。サッカー部は高専大会にて全国大会へ出場しており、また先生方も熱心に指導されていることには非常に共鳴出来ました。最初はコロナ禍で活動、大会等は縮小傾向でしたが、徐々に回復してきました。練習試合、大会などのために、今まで愛用していた車が電気自動車で航続距離が厳しいこともあるため、楽しみのために、軽自動車に買い替えた次第です。しかし、遠距離のため試合会場への送迎がなかなか出来ず、同級生の保護者の方が送迎を快く引き受けてくださり、本当に感謝しています。そして、今年度は九州沖縄地区高専大会でライバル鹿児島高専に劇的に勝利したことは、感動でした。これも先輩部員、熱心な指導者、チームメイトが結束して掴んだものです。今から、年末にある全国大会は非常に楽しみであり、感謝しかありません。

あまり比べるのもいけないのですが、上の兄弟に比べ6番目の子もあるのか、入学前は非常に幼いイメージがありました。都城高専に入学して、入寮させて頂き、共同生活、上下関係の生活、また、勉学の方は高専特有なのか我が子にとっては非常に厳しかったのではなかったかと思えます。また、部活の先生方もかなり熱心にやられたお陰でしょうか。寮から帰省するたびに、成長を非常に感じられました。息子にとっても都城高専で過ごせたことは、非常に楽しく、価値あるものになったのではと思います。卒業まで後1年強ありますが、息子には更に遅しく成長して、次の自分自身の道の目標に進んでほしいです。また、私は都城の町をもう少し探索することを楽しみにします。

旧学生会長挨拶

『みなさんへ』

建築学科5年 金子 晴飛



皆様、こんにちは。

私が学生会長を務めさせていただいたこの一年間、本当に光栄でした。皆さんと共に過ごす日々は、高専生活をより豊かにし、成長の機会に満ちていました。この場をおかりして、感謝の気持ちと挨拶を述べさせていただきます。

まず初めに、一年間の活動を支えてくださった全ての方々に心より感謝申し上げます。学生会のメンバー、教職員、そして何よりも皆さんの協力と理解があってこそ、私たちの取り組みが実を結びました。新しいアイデアやプロジェクトに挑戦し、多くの困難に立ち向かうことができたのも、皆さんの力強いサポートがあったからこそです。

一年の間、学生会は様々なイベントを企画しました。しかしながら、完璧な結果が出たわけではありません。流しそめん大会、焼き芋大会、クリスマス会と企画しましたが、実現できたのはクリスマス会だけという結果でした。失敗や試練もありましたが、そこから学び、成長することができたことに感謝しています。

学生会が目指したのは、高専全体の他クラス、他学年間の交流を生み、学生たちが自分自身の学生生活をより豊かにできる場を提供することでした。その一環として、様々な意見や要望を受け止め、実現に向けて努力してまいりました。これからも、新しい学生会が更なる発展と進化を遂げられるよう、引き続き皆さんのご協力をお願いいたします。

学生会長としての活動を通じて、多くの学びがありました。リーダーシップの重要性やチームワークの力、そして柔軟性や協力の重要性を痛感しました。これらの経験は私の将来においても大いに役立つものとなるでしょう。

最後に、新しい学生会長にメッセージを贈ります。新たな学生会において、自らのビジョンを追求し、学生たちと共に未来を築いていくことを心より願っています。引き継がれたものを十分に発揮し、学校をより良い場所にしていくリーダーシップを発揮してください。

今までのご支援、本当にありがとうございました。学生会長としての任期を終えますが、高専の発展と皆さんの幸せを心より願っています。お世話になりました。

新学生会長挨拶

『会生笑漢』

物質工学科4年 山下 源



あなたにとっての財産は何でしょうか。「富」、「名声」、「力」、人によってこの質問に対する答えは違うと思います。答えが一つに定まっていない問いほど難しいものはありませんが、僕の中では「人との出会い」が答えだと思っています。生まれて19年でまだ答えを出すには早すぎるかもしれませんが、しかし、僕が大きく成長できたのは多くの人との出会いがあったからだと自信を持って言えます。出会いから生まれる人との繋がりから、貴重な経験や達成感などを得ることができ、人への尊敬や憧れから自分を見つめる機会も増えました。都城高専には何かに秀でた学生や先生方が集まっているので、価値のある出会いが多く、そんな学生たちを新学生会長として引っ張っていけることをとても光栄に思います。今いる友達、先輩、後輩によって自分は成長できたので都城高専に入学してよかったなと思います。

今まで文化祭実行委員長として文化祭を運営する中で、シティーFM都城ラジオに出演したり、都城市の花火業者さんと協力して文化祭の最後に花火を打ち上げたり、多くの経験をしてきました。入学する時に考えていた高専生活より何倍も何十倍も楽しく、濃い高専生活を送れています。今までの出会い、そしてこれからの出会いを大切にしていきたいと思います。また、反対にみなさんにとって僕との出会いが財産になるように、山下源が学生会長の時の高専にいてよかったと思われる、そんな学生会長になります。こういう文を書いたり、説得力のある話をするには上手くできませんが、簡単な言葉で、持ち前の情熱とやる気と元気で、笑顔で、漢気で、行動力で、たまにできる可愛らしさで、全学生を引っ張り今までの学生会長が築きあげてきた都城高専の数段上の都城高専を創っていきます。みなさんの協力ももちろん必要です。一年間よろしくお願ひします！

学内トピックス

体育競技会

10月26日（木）に体育競技会を開催しました。今年度は4年ぶりに保護者や学外者の入場制限を設けずに体育競技会を開催することができ、当日は体育競技会実行委員の運営で、各競技とも大変盛り上がりしました。

各学科が放課後や休日に多くの時間をかけて、熱心に練習を重ねてきた応援演舞には、観覧していた学生・教職員や来場者から惜しみない拍手が送られました。残念ながら当日に演舞を披露できなかった機械工学科も、後日の12月13日（水）に演舞を披露する機会を設け、学生・教職員や保護者など多くの観覧者が集まりました。また、今年度も演舞の録画配信を行い、当日観覧に来ることのできなかった保護者等にも楽しんでいただけるようにしました。

競技の部総合優勝は機械工学科、応援演舞の部優勝は電気情報工学科、看板の部優勝は機械工学科でした。



棒倒し（令和5年度に復活）



看板（機械工学科・優勝）



応援演舞（電気情報工学科・優勝）



優勝旗授与（機械工学科・総合優勝）

学内トピックス

文化祭

10月28日（土）に、文化祭を開催しました。

今年のテーマは「LIFTED～新章開始～」。文化祭実行委員が、今まで止まっていた時間を再び動かし始め、新たな一歩を踏み出す文化祭として、学内だけでなく地域のみなさんとも関係を築き、高めあえるよう準備を重ねました。

今年度は4年ぶりに保護者や学外者の入場制限を設けない開催となり、体育館で行うイベントでは入場整理券を配布するなど、多くの方々に安心して観覧していただけるよう工夫しました。1年生ステージ発表、2年生お化け屋敷、3年生学科開放、4年生研究発表を始めとする各種イベントやコンテストを実施しました。学生による食べ物屋台も復活して長い行列ができ、キッチンカーの出店や後援会によるカレーうどんの無料配布も行われました。閉会式後には「打ち上げ花火」を行い、学生や教職員はグラウンドで打ち上げられた大きな花火を間近で見て楽しみました。

今年度の各イベントでは、1年生ステージ発表は電気情報工学科、2年生お化け屋敷は機械工学科、4年生研究発表は物質工学科が、それぞれ最優秀賞を受賞しました。



開会式の様子



1年生ステージ発表（電気情報工学科）



4年生研究発表（物質工学科）

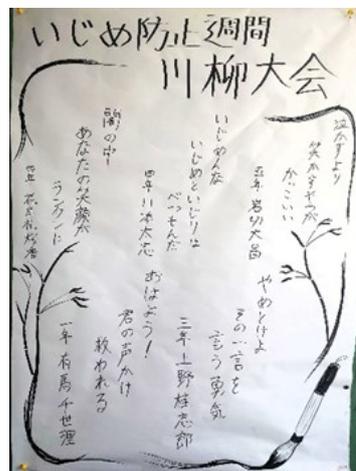


イベント・コンテスト（ボディビル大会）

【いじめ防止週間】いじめ防止川柳大会

11月29日（水）から12月5日（火）は、本校の令和5年度いじめ防止週間でした。

今年度のいじめ防止週間では、5.7.5で作った川柳を募集する「いじめ防止川柳大会」を実施しました。12月13日（水）の学生総会において、学生から応募された川柳から選ばれた最優秀賞が発表されました。今年度の最優秀賞は、5年建築学科の岩切大昌さんの作品『泣かすより 笑かすやつが かつこい』が受賞しました。



最優秀賞 5A 岩切 大昌

学内トピックス

高専ロボコン2023 地区大会

10月15日（日）に、熊本県八代市の八代トヨオカ地建アリーナにてアイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2023九州沖縄地区大会が開催されました。

今回の競技名は「もぎもぎ！フルーツGOラウンド」。角材やロープといった障害物を乗り越え、ロボットの制限高さを超える高所に設置されたフルーツを収穫する対戦型競技です。

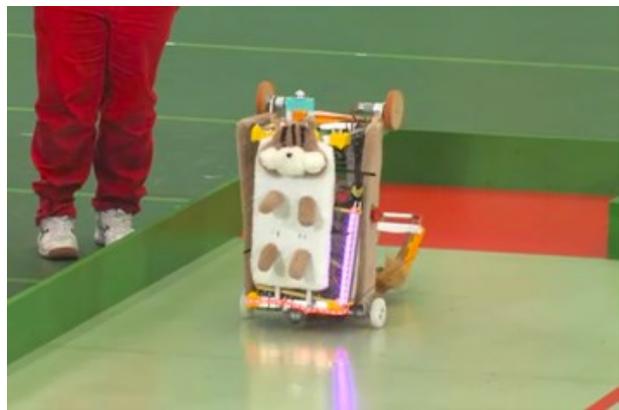
本校からは、都城Aチーム（5M渡辺 巴麒、3M木田 竜太郎、2M有澤 翔麻）「ペケペケ！カカポ&ココポ」と都城Bチーム（5M上村 日陽里、4M大迫 琴海、3M田岡 怜士）「ころころ！スクワロール！」が参加しました。両チームとも他に類のないユニークなアイデアでロボット製作に挑みましたが、競技中にその性能を十分に披露することができず、残念ながら予選グループで敗退となり決勝には進めませんでした。

しかしBチーム「ころころ！スクワロール！」はユニークで一線を画したアイデアが認められ、協賛企業の株式会社安川電機から特別賞をいただきました。

ロボット製作局一同



Aチーム「ペケペケ！カカポ&ココポ」



Bチーム「ころころ！スクワロール！」



試合前の様子



表彰式

学内トピックス

第11回都城高専おもしろ科学フェスティバル

令和5年9月10日（日）、本校において、「第11回都城高専おもしろ科学フェスティバル」を開催しました。本イベントは、小中学生を中心とした未来ある子ども達に、科学のおもしろさやものづくりの楽しさを伝えることで、将来の産業界等で活躍できる技術者の育成に貢献することを目的に実施しております。午前・午後合わせて852名の親子にご参加いただき、各ブースにおいて、さまざまな実験・工作などのものづくり活動に親しんでいただきました。



ロボットを操縦してみよう！



プログラミングをしてみよう（実験）



つくってみよう！らくらく建築！

高千穂寮トピックス

入寮式

4月6日（木）に新入寮生の入寮式を行いました。入学式に引き続き、第1体育館で開催しました。新入寮生と保護者に向けて、校長・寮務主事・寮生会長による挨拶及び寮生会役員・寮関係教職員による自己紹介等を行いました。



寮生会長による挨拶

寮生会役員の自己紹介

新入生寮歓迎会



新入寮生女子による自己紹介の様子

4月19日（水）に新入寮生計71名の歓迎会を行いました。4・5年生の寮生会役員からは高千穂寮周辺の「わたしの好きな店」の紹介があり、2・3年生男子からは劇やコントなど、歓迎の出し物披露がありました。新入寮生は堂々とした様子で自己紹介を行いました。

高千穂寮トピックス

寮祭

5月14日（日）に寮祭を開催しました。体育館ステージでのバンド演奏やダンスの催しのほか、水ヨーヨー釣りや輪投げなどのゲーム屋台や、キッチンカーが出店され、夜はグラウンドで手持ち花火を楽しみました。



輪投げ



水ヨーヨー釣り



花火

オープンキャンパス

8月5日（土）に開催されたオープンキャンパスでは、中学生・保護者向けの入寮相談を実施しました。寮生会役員が交代で相談にあたり、実体験を交えながら丁寧に回答する姿に、参加者からは「学生の生き生きとした姿を見ることができた。特に寮生活について話をした寮生がとても楽しそうだった。座談会のような時間をもっと設けてほしい」との感想が寄せられました。



入寮相談の様子

新1棟が完成しました

高千穂寮に新たに1棟が完成し、65室の居室（定員110名）が整備されました。4月から男子寮生を受け入れています。令和6年4月には、現在建設中の第2棟が完成する予定です。

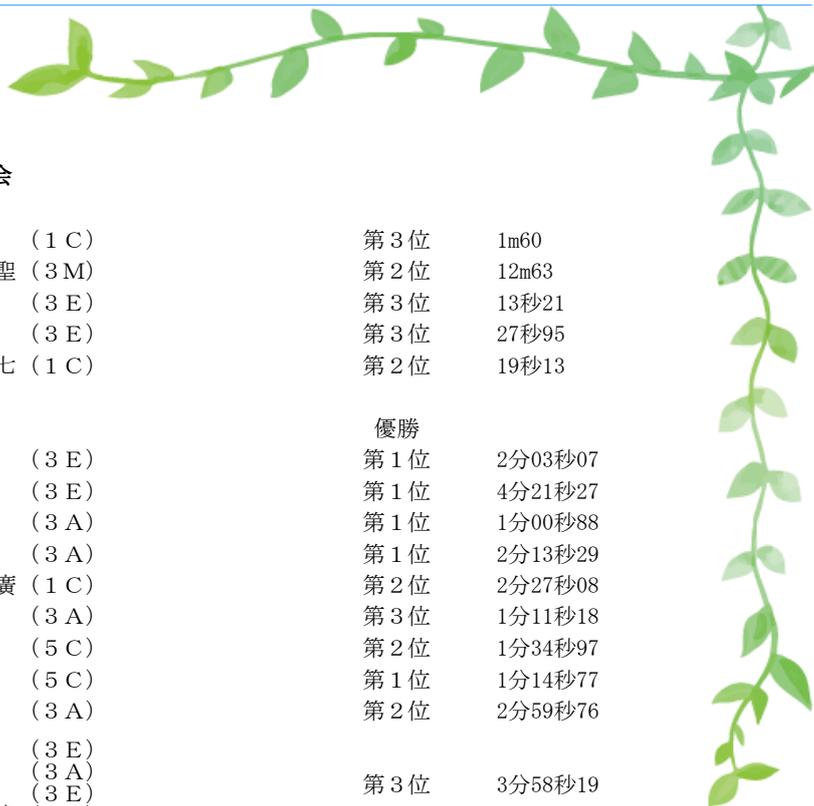


居室の様子



ラーニングスペース

学生表彰



第60回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会



◎陸上競技

男子走高跳	頼 宏忠 (1 C)	第3位	1m60
男子三段跳	種子田 峻聖 (3 M)	第2位	12m63
女子100m	下瀬 彩音 (3 E)	第3位	13秒21
女子200m	下瀬 彩音 (3 E)	第3位	27秒95
女子100mH	本目 惺流七 (1 C)	第2位	19秒13

◎水泳競技

団体	水泳部	優勝	
男子200m自由形	白谷 竜琥 (3 E)	第1位	2分03秒07
男子400m自由形	白谷 竜琥 (3 E)	第1位	4分21秒27
男子100m背泳ぎ	荒殿 大空 (3 A)	第1位	1分00秒88
男子200m背泳ぎ	荒殿 大空 (3 A)	第1位	2分13秒29
男子200mメドレー	池之上 真廣 (1 C)	第2位	2分27秒08
女子100m自由形	植田 旬美 (3 A)	第3位	1分11秒18
女子100m平泳ぎ	尾崎 彩花 (5 C)	第2位	1分34秒97
女子100m背泳ぎ	尾崎 彩花 (5 C)	第1位	1分14秒77
女子200m個人メドレー	植田 旬美 (3 A)	第2位	2分59秒76

男子4×100mフリーリレー	白谷 竜琥 (3 E) 荒殿 大空 (3 A) 松田 元気 (3 E) 池之上 真廣 (1 C)	第3位	3分58秒19
----------------	-----------------------------------------------------------	-----	---------

男子4×100mメドレーリレー	荒殿 大空 (3 A) 池之上 真廣 (1 C) 實方 亮仁 (1 E) 白谷 竜琥 (3 E)	第1位	4分19秒23
-----------------	-----------------------------------------------------------	-----	---------

女子4×50mフリーリレー	牛道 芽衣 (1 A) 植田 旬美 (3 A) 尾崎 琳 (3 E) 尾崎 彩花 (5 C)	第2位	2分16秒69
---------------	---------------------------------------------------------	-----	---------

女子4×50mメドレーリレー	牛道 芽衣 (1 A) 植田 旬美 (3 A) 尾崎 琳 (3 E) 尾崎 彩花 (5 C)	第2位	2分40秒89
----------------	---------------------------------------------------------	-----	---------

◎ハンドボール競技

ハンドボール部 準優勝

◎ラグビーフットボール競技

ラグビー部 第3位

◎剣道競技

剣道部 (女子団体) 優勝

◎サッカー競技

石塚 千夏 (5 A) 第1位

サッカー部 準優勝

真田 征侍 (5 E)
岩切 大昌 (5 A)
花畑 空大 (5 C)
片平 力渡 (5 M) 大会優秀選手

◎柔道競技

男子個人戦66kg級	柔道部 (団体)	準優勝	
男子個人戦73kg級	目良 誠也 (4 E)	第3位	
男子個人戦73kg級	甲斐 悠汰 (1 M)	第3位	
	岩満 琥太郎 (1 C)	第3位	

◎テニス競技

女子団体	テニス部	準優勝	
女子シングルス	下村 紅羽 (4 A)	第3位	



第9回九州沖縄地区高等専門学校弓道大会

男子団体	弓道部	優勝	
女子団体	弓道部	第3位	
男子個人の部	柿木 匠 (4 M)	第1位	
男子個人の部	松下 倅大 (4 A)	第2位	
男子個人の部	永野 稜真 (5 M)	第3位	
女子個人の部	林 由希奈 (1 E)	第1位	



学生表彰



第10回全国高等専門学校弓道大会

男子団体

弓道部

準優勝
射道優秀賞
第4位

男子個人の部

永野 稜真 (5 M)

第58回全国高等専門学校体育大会

◎水泳競技

男子200m自由形

白谷 竜琥 (3 E)

第3位

2分02秒82

男子400m自由形

白谷 竜琥 (3 E)

第3位

4分17秒30

男子100m背泳ぎ

荒殿 大空 (3 A)

第1位

59秒29

男子200m背泳ぎ

荒殿 大空 (3 A)

第1位

2分10秒81

◎剣道競技

女子団体

剣道部

準優勝

◎サッカー競技

サッカー部

準優勝

真田 征侍 (5 E)

綿内 大成 (5 M)

片平 力渡 (5 M)

溜池 琉人 (5 A)

大会優秀選手

令和5年度宮崎県高等学校総合体育大会

◎水泳競技

団体

水泳部

第3位

水泳男子100m背泳ぎ

荒殿 大空 (3 A)

第1位

1分00秒03

水泳男子200m背泳ぎ

荒殿 大空 (3 A)

第1位

2分10秒71

水泳男子200m自由形

白谷 竜琥 (3 E)

第1位

2分01秒15

水泳男子400m自由形

白谷 竜琥 (3 E)

第1位

4分17秒10

水泳男子400m個人メドレー

實方 亮仁 (1 E)

第3位

6分06秒75

水泳男子400mメドレーリレー

白谷 竜琥 (3 E)

荒殿 大空 (3 A)

松田 元気 (3 E)

實方 亮仁 (1 E)

第2位

4分20秒08

水泳男子400m自由形リレー

白谷 竜琥 (3 E)

荒殿 大空 (3 A)

松田 元気 (3 E)

實方 亮仁 (1 E)

第3位

3分54秒52

◎少林寺拳法 (女子単独演武)

荒場 空 (2 A)

第4位

令和5年度宮崎県高等学校新人総合体育大会 (水泳競技)

水泳男子200m個人メドレー

池之上 真廣 (1 C)

第2位

2分29秒15

水泳男子400m個人メドレー

池之上 真廣 (1 C)

第3位

5分25秒80

水泳男子50mバタフライ

實方 亮仁 (1 E)

第3位

28秒79

令和5年度都城市スポーツ賞

◎水泳競技 (個人の部)

尾崎 彩花 (5 C)

荒殿 大空 (3 A)

優秀賞

◎弓道競技 (団体の部)

山田 航大 (5 E)、永野 稜真 (5 M)

柿木 匠 (4 M)、松下 倅大 (4 A)

谷本 暁斗 (2 M)、前田 泰雅 (2 E)

高橋 倭斗 (1 C)、田中 龍之介 (1 A)

剣道部女子

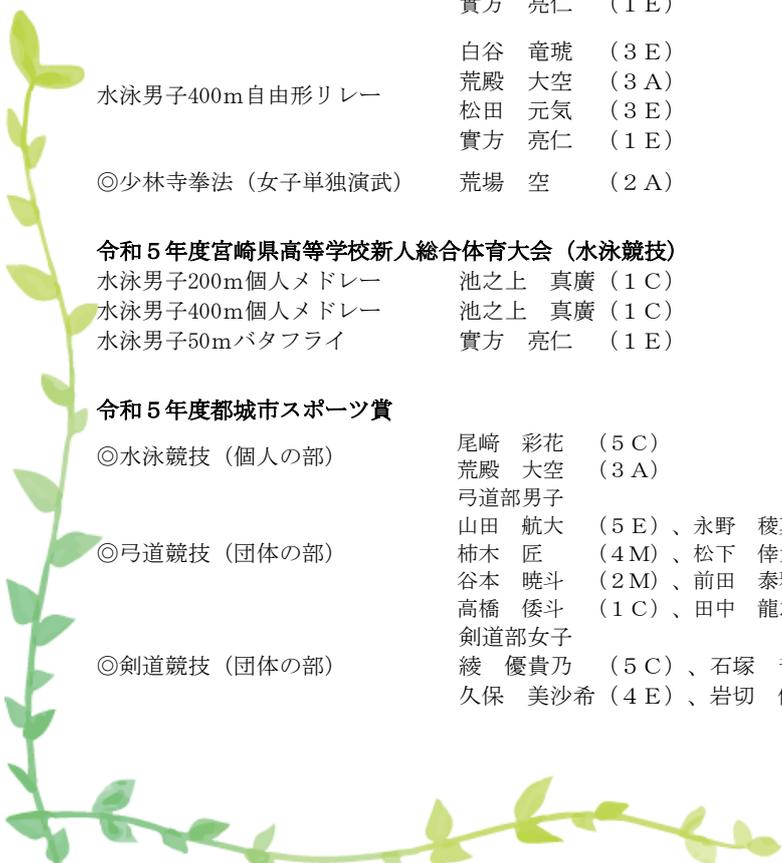
優秀賞

◎剣道競技 (団体の部)

綾 優貴乃 (5 C)、石塚 千夏 (5 A)

久保 美沙希 (4 E)、岩切 優衣 (2 C)

優秀賞



学生表彰



令和5年度第1回宮崎県学生栄誉賞

◎水泳競技(個人) 荒殿 大空 (3A)

アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2023九州沖縄地区大会

Bチーム 上村 日陽里 (5M) 特別賞
「ころころ!スクワロール!」 大迫 琴海 (4M) (安川電機)
田岡 怜士 (3M)

第20回全国高等専門学校デザインコンペティション

創造デザイン部門 勝田 悠日 (AD1A) 審査員賞
前田 真明 (AD2A) (内山裕弥賞)

第56回九州沖縄地区国立高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト

暗唱部門 梅木 瞳 (1C) 優勝

第68回宮崎県吹奏楽コンクール

大学の部 吹奏楽部 金賞

令和5年度明るい選挙啓発ポスター・標語書道

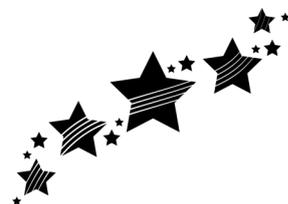
標語書道 高等学校の部 植田 旬美 (3A) 銀賞

令和5年度「サイエンスコンクール」

プレゼンテーション 津留 昇希 (2M) 優秀賞

第7回「発酵を科学する」アイデア・コンテスト

テーマ「日本のおコメにあう、
愛すべき郷土の発酵おかず」
池袋 優斗 (5C) 審査員賞
中村 竜之進 (5C) (ブンボ賞)
山手 聖純 (5C)
高木 奈生 (5C) 審査員賞
藤田 琳菜 (5C) (星野概念賞)
渡部 一心 (5C) 特別賞
RICARDO (5C) (参加者の投票)



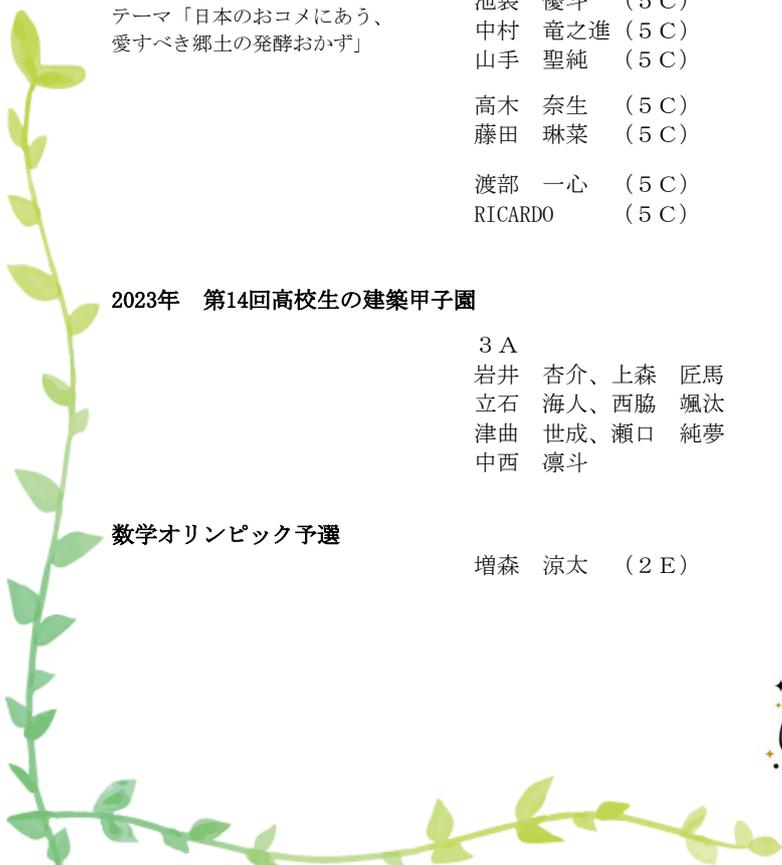
2023年 第14回高校生の建築甲子園

3A
岩井 杏介、上森 匠馬
立石 海人、西脇 颯汰
津曲 世成、瀬口 純夢
中西 凜斗 入賞

数学オリンピック予選

増森 涼太 (2E) JMO地区表彰

Congratulations!





豊橋技術科学大学主催のペナン研修について

4年機械工学科 清水航、山下弘輝

①感想 ②海外研修で得たこと ③理解した文化や異なる価値観について ④これからの生活においてさらに発展させていきたいこと

①英語実践研修や、ペナンの歴史的建造物や観光地を訪れる体験を通し、他の高専の人との仲を深めることが出来ました。マレーシアの食べ物は、辛すぎたり甘すぎたりするものが多く、ネゴシエーション注文をすることを覚えました。初めて食べるものも辛そうな見た目によらず、おいしかったです。特に屋台で頼んだスープ系の料理ではスープが煮込んでありよくだしがきいていました。夜の自由行動では、それぞれのやりたいことや洗濯の都合などを考え計画を立て、また相部屋ではお互いを尊重しながら2週間過ごしました。偶然同じ研修に参加しただけなのに、こんなに仲良くなれるのかと思うくらい、全員満遍なく仲良くなれたグループでした。また、撮った写真は思い出がたくさん詰まっている宝物になりました。

②私は、この研修で英語力に加え、人間力も成長させることが出来たと思います。

研修に参加するよう元々意識の高い人たちや、現地の優秀な高校生と交流して刺激を受け、自分の将来について考える機会にもなりました。私の英語学習は全然足りないことと、毎日の積み重ねが大切なことなど、英語が喋れる同年代の人たちを見て毎日努力しているのだと感じ、帰国後のモチベーションに繋がりました。

また、ご飯の時間や待ち時間などに、豊橋技科大の教員の方々が進路面での相談に乗ってくださる機会もあり、とても有意義な時間でした。技科大の現地職員の方々が、歴史的建造物や現地の習慣を話してくださったり、いろいろなところへ連れて行ってくださったりしたおかげで旅行とは異なる、マレーシアペナンについて深く理解できたように思います。

英語力に関しては、以前は自分の英語に自信がなかったのですが、この研修中に英語で伝えるという体験を多くしたことで、英語を堂々と話せるようになったと思います。英語研修というものが3日間あり、歌やジェスチャーを伴う物語の音読を行いました。特に面白いと感じたのが、バナナの歌です。バナナpeel-chop-blend-drinkの順で大きな声で歌い、大げさなアクションまでつける先生をマネして、英語の発声練習をしました。これを通して初めて、自然と英語が口から出てくる体験をしました。また、私を感じた英語を話す感覚とは、まるでネイティブであるかのようにふるまうことと、自信のある大きな声で発声することです。

③マレーシアは中国、インド、マレー系などの多民族国家です。街中では、教会の向かいにモスクがあり、様々な系統の異なる寺院がたくさん建てられていました。ESCAPE というテーマパークに行った時、プールでムスリムの女性が全身黒いスイムスーツのようなもので肌を覆っていました。日本では見たことない光景だったのでびっくりしましたが、どんな時も宗教を大切にし、宗教に沿った商品も販売されていることを知りました。マレーシアの人は、いい意味で他人に興味が無いそうです。実際に先生と、何も頼んでいない飲食店で勝手にトイレを借りても店員さんはスルーでした。日本だと不審な目で見られたり、止められたりするはずなのに、文化が明らかに違うことを感じました。

車もバイクもすごいスピードで道路を走るため、交通事故がとても多いそうです。恐らく交通事故によって足が無い人を、道でよく見かけました。また、道路において車体の大きな車の方が強いため、先生は「車の大きさと勝ちました」とよく言いながら運転されていました。日本だと軽自動車がよく走っていますが、マレーシアで軽自動車だと大きさと勝てないためか、普通車かそれ以上の車しか道路で見かけませんでした。

④この研修で得た英語を話す感覚を忘れないように、積極的に英語を話し、聞ける環境に身を置いていきたいです。具体的には、生活習慣にネットで音声や動画を聞き英語学習も取り入れていきたいと思いました。

この研修に参加した目的は、将来グローバルな人材として社会の役に立ちたいと考え、そのために必要なTOEICの勉強のモチベーションにすることでした。そのため、これからの学生生活において、英語を頑張っている友達と切磋琢磨しながらTOEICのスコアを上げていきたいです。

初めて1人で飛行機に乗り海外へ行きましたが、特に問題なく行き帰り出来たことから、次の海外へ行くというハードルが低くなりました。

まとめとして、今回は沢山大人の方に現地でのサポートや事務作業などでお世話になりました。この研修を活かし、さらに自分を成長させていきたいです。

モンゴル科学技術大学およびモンゴル3高専との学生交流

建築学専攻2年 谷口陽菜、建築学専攻1年 勝田悠日、
建築学科5年 宮尾咲蘭、和田幸花、建築学科4年 鈴木花恵



モンゴル科学技術大学およびモンゴル3高専の学生との交流および、他国の文化を知るための異文化体験プログラムに2023年8月23日から8月30日の日程で参加しました。

モンゴル科学技術大学やモンゴルの高専を訪問・学校見学したり、モンゴルの学生達とのワークショップ（まちあるきワークショップ）を行いました。学生交流ワークショップは、モンゴル科学技術大学およびモンゴル3高専の学生、都城高専の学生、モンゴル人留学生（日本の高専卒）（合計31名）が参加し、3グループに分かれてまち歩きおよびプレインストーミング等を行い、ウランバートル市街地の都市環境改善案を提案しました。日本人とモンゴル人の双方からみたウランバートルの良いところ・悪いところを意見交換しながら、出来る限り実現可能性の高い提案になるようにみんなでアイデアを出し合い、具体的なデザインのプロセスやビジョンを共有していきました。

話し合いの中で語学力やコミュニケーション能力を高める必要性を強く感じました。

モンゴルの高専や大学の施設見学では、今の私たちの恵まれた環境を再認識すると共に、他国の高専生との交流はとても刺激になりました。また、モンゴルの郊外でモンゴルの雄大な文化に触れ、こうした環境の中で育まれてきた遊牧文化を実感し、現在のウランバートルの都市環境とのギャップを感じてきました。今まで日本では体験できなかった刺激を糧に、その地域のアイデンティティを活かした建築やまちづくりについても考えてみたいと思った貴重な経験になりました。





留学生研修旅行での鹿児島旅行

5年物質工学科 Ricardo(リョタ)

12月2日から12月3日まで都城高専の留学生4名(リョタ、ニヤムカ、トルガ、ピーター)と先生2名(田村先生、東根先生)、計6名で鹿児島旅行に行きました。本旅行は日本文化および九州南部の多様な地域的特性に対する理解を深めることを目的として、桜島や仙巖園、霧島神宮などに行きました。また、フェリーに乗ったり、絶景の温泉に入ったりしました。



本旅行の初めの目的地は桜島です。母国であるインドネシアは火山が多いですが、桜島のビジターセンターを訪問したことで、火山について多くの新しいことを学ぶことができました。また、近くの足風呂の存在にも感心しました。足をお湯につけながら、桜島の絶景を楽しみ、本などをゆっくり読んでみたい気分になりました。次回の旅行プランに入りたいと思います。皆さんもぜひ行ってみてください。桜島の後、フェリーに乗って、周りの皆からおすすめされたうどんもしっかり食べました。寒い中のうどんは最高でした。フェリーに乗ったのはわずか15分でしたが、涼しい風を浴びながら、周囲の風景を楽しみました。

鹿児島市へ到着した後、仙巖園に行き、薩摩の殿様が姫君が住んでいた場所を見ました。所々に紅葉があり、中庭にある庭園、御殿などが本当に綺麗で、非常に裕福な家だったことがわかりました。特に印象に残ったのは、桜島の全貌が見られる御居間です。静かな場所の上に、桜島の全貌、周囲の紅葉が非常に美しく、勉強や書類の決裁などもはかどったことでしょうか。来年度からの一人暮らしの間取りのインスピレーションにもなりました。



翌朝にホテルの最上階にある温泉で、煙を出していた桜島を見ながら、湯船につかりました。そのおかげで、自分も元気づけられて、いい一日のスタートになりました。温泉に入りながら、留学生たちと色々な話をし、日本の文化である「裸の付き合い」で仲が深まりました。その後、国宝指定された霧島神宮に行きました。思った以上に広くて、本殿の竜の作りこみも素晴らしかったです。非常に古い神社の一つでしたが、今でも維持され、この世代まで引き継がれたのに感動しました。

この旅行を通して、鹿児島の特徴を直接見ることができ、他の留学生と先生たちの仲も深まり、非常に有意義な旅行になりました。ぜひこれからも、留学生たちだけでなく、日本人も参加・交流できる旅行も計画してほしいです。計画してくれた先生方および都城高専に感謝します。



モンゴル・ウランバートル市における都市環境調査の実施

建築学科・杉本研究室

建築学科・杉本研究室ではモンゴル・ウランバートル市街地を調査対象とし、現地研究協力機関(モンゴル科学技術大学、モンゴル3高専)と協同・協働して「都市部集住における持続可能な生活環境づくりに関する研究」を行っています。

近年、モンゴル・ウランバートル市街地は急激な都市化・定住化が進み、極めて高密度な集住環境の中で特徴的な生活・コミュニティ・余暇活動の状況がみられています。その人口密度は東京の約6倍以上と言われています。

本研究では、モンゴル固有の社会・文化的環境や気候・風土に視座を置きながら、モンゴル生来の移動性の高い生活・居住スタイルや、その中で醸成された特有の生活・コミュニティ意識・活動に着目し、時間の流れの中で変容が著しい生活・居住環境とコミュニティ形成の状況を明らかにしようとするものです。また、モンゴル固有の「住み替え」(都市内での移住)を前提とした生活・居住空間整備の方法論〔ハード〕と生活・余暇・コミュニティ活動の状況〔ソフト〕の両側面より居住者主体の持続可能な生活・居住環境づくりの在り方及び手法(デザインプロセス等)を総体的に検証すると共に、都市定住化による空間的・意識的変容と生活・余暇・コミュニティ活動の相関について明らかにし、適正な環境評価指標の構築を目指して研究を進めています。

令和5年度は都市環境調査に研究室の所属学生2名も参加し、現地でのヒアリング調査、施設分布状況調査等を行い、都市環境の定量化を進めています。



少年少女科学アカデミー

都城高専 少年少女科学アカデミーの取組み

実験や、ものづくりに興味のある人、将来、技術者（エンジニア）になって、宮崎、そして日本、さらには世界で活躍したいと考えている小中学生をサポートするのが、少年少女科学アカデミーです。本事業は、平成30年度「KOSEN（高専）4.0」イニシアティブ事業において「次世代を担う少年少女科学アカデミーの設立～グローバル人材育成への架け橋～」の事業名で採択されました。この事業では、小中学校と都城高専の架け橋となる「少年少女科学アカデミー」を設立し、小中学生の早期技術者教育およびグローバル人材育成のための小中学校・高専一貫教育システムを構築し実施することを目的としており、毎年開催しています。少年少女科学アカデミーには、「ベーシックプログラム」と「アドバンスドプログラム」の2つのコースがあります。

【ベーシックプログラム】

小学校5年生から中学生を対象に、本校の設備を利用して、本校の学生（高学年生・専攻科生）と共に研究体験を行います。

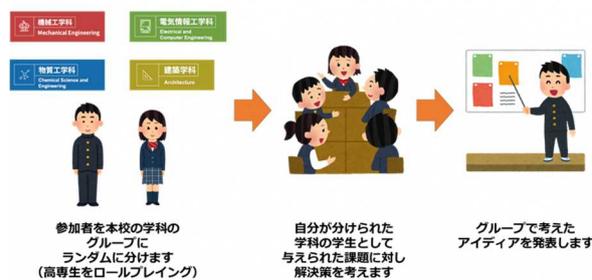
【ベーシックプログラムの流れ】



【アドバンスドプログラム】

中学2年生以上を対象に、本校の学生（高学年生・専攻科生）と共にアイデア発想演習を行います。

【アドバンスドプログラムの流れ】



令和5年度のアドバンスドプログラムでは都城市消防局とコラボして、「防災からつなぐ未来創り～高専の技術で10年後も20年後もずっと安心して暮らせる宮崎を創ろう～」というテーマで8月10日・11日に実施しました。県内各地より16名の学生が参加し、TA学生9名及び教職員スタッフと共に協力して2日間かけてアイデアを出し合いました。そして、プログラムの最後にはそれぞれの班が考えたアイデアを発表し、最優秀賞・優秀賞を選出しました。参加した中学生からは「考え方や新しい知識を得られてよかった」「知らない人とのアイデアの交換で考えたことが無い意見もあって楽しかった」などの意見が寄せられました。また、TAとして参加した学生からも「私には無い視点で物事を考えられている点ですごくいい体験になった」「中学生の柔軟な発想は、今は現実味が無くても20年、30年と先の未来を考えると実現できるような発想で面白い発想だと感じた」など、本校学生にとっても学びを得る機会になったと思います。



このように、少年少女科学アカデミーでは、事業を通して、将来の技術者の裾野拡大を図ると共に、「本校にマッチした志願者の安定確保」「本校学生の指導力向上」「宮崎県における高専教育の理解と本校の重要性の向上」を目指して今後も活動を続けていきたいと思っています。



主な就職・進学内定先一覧（順不同）

本 科			
機械工学科	<p>○旭化成株式会社 ○石福金属興業株式会社 ○NECプラントエンジニアリング株式会社 ○ENEOS株式会社 千葉製油所 ○京セラ株式会社 鹿児島隼人工場 ○株式会社京都製作所 ○キリンビール株式会社 神戸工場 ○コマツカスタマーサポート株式会社 ○JASM株式会社 ○株式会社ニコン ○日産オートモーティブテクノロジー株式会社 ○ファナック株式会社 ○福井村田製作所株式会社 ○三菱地所コミュニティ株式会社 ○宮崎日機装株式会社 ○株式会社ユー・エム・アイ 九州工場 ○株式会社YMIT ○独立行政法人国立高等専門学校機構 都城工業高等専門学校 技術職員 ○鹿児島大学 ○鹿屋体育大学 ○九州大学 ○熊本大学 ○長岡技術科学大学 ○宮崎大学 ○都城高専専攻科</p> <p style="text-align: right;">求人件数 計 723 件</p>		
電気情報工学科	<p>○株式会社アイ・システム ○株式会社アステック ○NECネットワークスアイ株式会社 ○西日本電信電話株式会社 ○株式会社科学情報システムズ ○株式会社環境総合リサーチ ○株式会社九州大真空 ○九州電力株式会社 ○京セラ株式会社 鹿児島国分工場 ○株式会社クレスコ ○株式会社ジェイ・クリエイション ○全農サイロ株式会社 ○中部電力株式会社 ○株式会社東上セレモサービス ○西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社 ○株式会社ファインディックス ○ファナック株式会社 ○株式会社FIXER ○富士ソフト株式会社 ○富士通ネットワークソリューションズ株式会社 ○富士電機株式会社 ○株式会社宮崎銀行 ○九州工業大学 ○電気通信大学 ○豊橋技術科学大学 ○長岡技術科学大学 ○宮崎大学 ○都城高専専攻科</p> <p style="text-align: right;">求人件数 計 715 件</p>		
物質工学科	<p>○旭化成株式会社 ○出光興産株式会社 ○ENEOS株式会社 ○京セラ株式会社 ○グンゼ株式会社 ○サントリーホールディングス株式会社 ○第一三共ケミカルファーマ株式会社 ○第一三共プロファーマ株式会社 ○ダイキン工業株式会社 ○大日精化工業株式会社 ○田辺三菱製薬工場株式会社 ○日東電工株式会社 ○一般社団法人 日本血液製剤機構 ○ピー・アンド・ジー株式会社 ○P&Gジャパン合同会社 ○富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社 ○株式会社プレジィール ○三島光産株式会社 ○三菱重工工業株式会社 総合研究所 ○宮崎日機装株式会社 ○森トラスト・ビルマネジメント株式会社 ○株式会社UIM ○ユニチカ株式会社 ○ラピスセミコンダクタ株式会社 ○鹿児島大学 ○熊本大学 ○東京工業大学 ○東京農工大学 ○長岡技術科学大学 ○都城高専専攻科</p> <p style="text-align: right;">求人件数 計 425 件</p>		
建築学科	<p>○アイディ・ホーム株式会社 ○株式会社一条工務店 ○株式会社岩切設計 ○株式会社M&Ftecnica ○株式会社大林組 ○株式会社Koa Architect ○株式会社国分ハウジング ○コーナン建設株式会社 ○五洋建設株式会社 ○株式会社桜木組 ○住友不動産株式会社 ○大和ハウス工業株式会社 ○株式会社竹中工務店 ○丹勢建設株式会社 ○東急建設株式会社 ○戸田建設株式会社 ○南生建設株式会社 ○西日本高速道路株式会社 ○日本国土開発株式会社 ○日本メックス株式会社 ○はやま建設株式会社 ○三井不動産レジデンシャルサービス株式会社 ○株式会社三越伊勢丹プロパティ・デザイン株式会社 ○三菱重工機械システム株式会社 ○三菱地所プロパティマネジメント株式会社 ○株式会社吉満組 ○吉原建設株式会社 ○株式会社LIXIL 知多工場 ○鹿児島大学 ○熊本大学 ○東京都立大学 ○都城高専専攻科</p> <p style="text-align: right;">求人件数 計 313 件</p>		
専 攻 科			
機械電気工学専攻	物質工学専攻		建築学専攻
<p>○株式会社NTTデータ ○株式会社京都製作所 ○西日本電信電話株式会社 ○パナソニック株式会社 暮らしアプライアンス社 ○九州大学大学院 ○東北大学大学院 ○広島大学大学院 ○北陸先端科学技術大学院大学</p>	<p>○DIC株式会社 ○沢井製薬株式会社 ○大阪大学大学院 ○九州大学大学院 ○東京工業大学大学院</p>		<p>○株式会社オリエンタルコンサルタンツ ○大成建設株式会社 ○株式会社TAK-QS ○東京ガスネットワーク株式会社 ○戸田建設株式会社 ○都城市役所</p>
求人件数 計 1,826 件 (令和5年12月末現在)			

都城工業高等専門学校校歌

作詞 清水 徹

作曲 海老原 直

Moderato
mf con spirito

<p>三</p> <p>あ 花は開かん学舎ぞ あ 高専都城</p> <p>また雄々しくも咲き匂う みやま霧島かたどりて 広く豊けき教養の</p> <p>高き岩根に美しく また雄々しくも咲き匂う</p>	<p>二</p> <p>あ 集いしわれら八百の 心と技術の学舎ぞ ああ高専都城</p> <p>古き都に新しき 工学の道極めんと 遠き歴史を伝えたる</p>	<p>一</p> <p>あ 夢はぐくまん学舎ぞ ああ高専都城</p> <p>心も清き若人の 高き理想にあくがるる 峰々遠く仰ぎつゝ 暁雲映ゆる霧島の</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------



独立行政法人国立高等専門学校機構
都城工業高等専門学校
National Institute of Technology (KOSEN), Miyakonojo College

〒885-8567 宮崎県都城市吉尾町473番地の1
TEL (0986) 47-1107 FAX (0986) 38-1508
URL <https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/>

